

京都大学
大学院理学研究科
地球惑星科学専攻年報
(WEB 版)

2006（平成 18）年度

Division of Earth and Planetary Sciences
Graduate School of Science, Kyoto University

目次

	頁
1. はじめに	3
2. 教育活動の概要	
2.1 学部	5
2.1.1 講義	
2.1.2 課題演習	
2.1.3 課題研究	
2.1.4 学生進路	
2.2 大学院	13
2.2.1 特別講義	
2.2.2 大学院学生	
2.2.3 大学院修士課程入学者	
2.2.4 大学院博士後期課程進学・編入学者	
2.2.5 研修員・研究生・COE 研究員・日本学術振興会特別研究員(PD)	
2.2.6 学位	
2.2.6.1 修士	
2.2.6.2 博士	
2.2.7 大学院学生進路	
3. 図書室	33
4. 各種委員会	36
5. 職員名簿	39
付録1. 論文・報告書・学会発表	41
付録2. 観測データ・野外調査	72
付録3. その他の活動	73
付録4. 地球物理学技術情報活動報告（地球物理学分野）	78

1. はじめに

これまで地球物理学教室は年報を、地質学鉱物学教室は4～5年毎に教室の近況報告を、それぞれ出版してきましたが、平成18年度は地球惑星科学専攻として、両教室（研究分野）を併せた年報を出版することになりました。自己点検・評価書に見られるように近年様々な形で専攻や教員個人の活動度を表す資料を要求されることが増加しており、それに応える上でも、本年報は専攻全体の活動状況がよりよく見渡せる資料として価値があると考えています。

平成18年度は法人化後3年目にあたり、昨年に引き続き、経費や人員の削減で更に対応を迫られる年となりました。また、今年度および来年度に続きますが、建物や設備に関する事柄が多く発生した年でもありました。地球物理学教室では、理学部3号館の改修に伴い地下室に存在した部屋を出て、理学部1号館のプロジェクトスペースにとりあえず物品を移動しました。重力基準点はそのまま残すことができましたが、実習等には理学部1号館地下にある地質学鉱物学教室の基準点を使用することになりました。これらの部屋は後で述べる耐震改修後の1号館に入る予定です。また、理学部4号館では、地下共同会議室・図書室・階段および一部の研究室のアスベスト撤去作業が8月～10月にかけて行われました。理学部1号館でも地質学鉱物学教室2階の大会議室と玄関のピロティの部分のアスベスト撤去作業が行われました。12月末には理学部の5号館と1号館の南半分の耐震改修工事を行うための18年度補正予算がつき、工事は平成19年度中に行うことが決定されました。これを受け、19年1月～3月にかけて1号館、5号館関係者間で急遽、工事のための待避計画が策定されました（北部分の耐震改修は20年度の見込み。）1号館全体の耐震改修後（平成21年度の予定）に地球物理学教室は理学部4号館および2号館から理学部1号館に引っ越し、地球惑星科学専攻が同じ理学部1号館に結集し、ようやく数年来の懸案であった、専攻としての空間的まとまりが実現できる方向性が打ち出されました。これを機に、専攻内各分野間のより一層の連携と、教育・研究活動の充実を図りたいと考えています。

学校教育法の一部改正に伴う教員組織の変更が平成19年4月から実施され、助教授が准教授、助手が助教と名称が変更され、助教も講義を持つことが可能になりました。学校教育法では助教も大学院生の指導もできるとありますが、理学研究科ではこの点については引き続き議論を行っています。

また、21世紀COEプログラム活地球圏—アジア・オセアニアから世界への発信—は4年目に入り、代表の余田成男教授を中心に、インドネシアの鍾乳石を用いた赤道域の古気候・古環境学的研究などの分野横断的研究、大学院授業、特別セミナー、さらに、インドネシア・バンドンでのサマースクールや京都大学時計台ホールにおける国際シンポジウムなどを実施して大きな成果を挙げています。

人事面では、地球物理学教室の青木京子事務主任が定年退職され、3月31日には、地球物理学教室で、これまでの労をねぎらい、感謝の気持ちをお伝えするために、ささやかではありましたが、「青木さんを送る会」を開催しました。高畑武志技官は、地球物理学教室の情報処理関係の仕事をしていましたが、理学研究科の事務関連の仕事に携わることになり、籍は教室に置いたまま、居室を理学部1号館に移されました。また、2月1日付けで、福田洋一助教授が固体地球物理学講座測地学分野教授に、3月1日付けで、里村雄彦助教授が大気圏物理学講座物理気候学分野教授に、それぞれ昇任されました。地質学鉱物学教室では10月1日付けで、田上高広助教授が地球テクトニクス講座の教授に昇任、3月末日をもって、同講座の嶋本利彦教授が広島大学へ転出されました。

最後になりましたが、本年報を編集されました図書・出版委員会のメンバー、特に、委員長である、久家慶子ならびに山路敦准教授、さらに、両教室事務職員の方々と資料をいただいた両教室構成員の皆様に感謝します。

平成19（2007）年8月5日

平成18年度地球惑星科学専攻主任・副主任
平原 和朗・小畑 正明

2. 教育活動の概要

2.1 学部

2.1.1 講義

理学部

科 目	前・後	担 当 教 官
地球・惑星科学I	前	平原和朗・福田洋一・竹村恵二
地球・惑星科学III	後	淡路敏之・町田 忍・余田成男
計算地球物理学	後	中西一郎・久家慶子・秋友和典・石岡圭一
計算地球物理学演習	後	石岡圭一・中西一郎・秋友和典・久家慶子・根田昌典・石川洋一・内藤陽子・齊藤昭則
地球連続体力学	後	石岡圭一
観測地球物理学	前	町田 忍・里村雄彦・藤森邦夫・塩谷雅人(生)
観測地球物理学演習 A	夏期集中	里村雄彦・藤森邦夫・西 憲敬・齊藤昭則・内藤陽子・田中良和(阿)・鍵山恒臣(阿)・須藤靖明(阿)・古川善紹(阿)・大倉敬宏(阿)・宇津木充(阿)
観測地球物理学演習 B	夏期集中	竹村恵二(別)・大沢信二(別)・堤 浩之・柴田知之(別)・川本竜彦(別)・山本順司(別)・古川善紹(阿)
グローバルテクニクス	後	田上高広・古川善紹(阿)
弾性波動論	前	中西一郎・平原和朗
地球流体力学	前	里村雅彦
電離気体電磁力学	前	家森俊彦
地球熱学	前	竹村恵二(別)・鍵山恒臣(阿)・大沢信二(別)・古川善紹(阿)
測地学I	後	福田洋一・藤森邦夫
測地学II	前	福田洋一・藤森邦夫
地震学I	後	平原和朗
地震学II	前	久家慶子・James J Mori (防)
海洋物理学I	後	秋友和典
海洋物理学II	前	淡路敏之
気象学I	後	余田成男
気象学II	前	余田成男・石岡圭一
地球電磁気学	後	家森俊彦(磁)
太陽地球系物理学	前	町田 忍
物理気候学	前	里村雄彦
陸水物理学	前	大沢信二(別)・諏訪 浩(防)
火山物理学 I	後	古川善紹(阿)
火山物理学 II	前	鍵山恒臣(阿)・田中良和(阿)・須藤靖明(阿)・大倉敬宏(阿)・石原和弘(防)・井口正人(防)
地形学	後	堤 浩之
活構造学	前	堤 浩之

磁：地磁気世界資料解析センター

防：防災研究所

別：地球熱学研究施設

阿：地球熱学研究施設火山研究センター

生：生存圏研究所

科 目	前・後	担 当 教 官
岩石学I	前	小畑正明
岩石学II	後	小畑正明・平島崇男
鉱物学I	前	北村雅夫
鉱物学II	後	北村雅夫
層序学	前	前田晴良・成瀬 元
地質調査法	前	前田晴良・山路 敦
生物圏進化史	後	大野照文・松岡廣繁
古生物学I	前	前田晴良・松岡廣繁
古生物学II	後	前田晴良・大野照文・松岡廣繁・成瀬 元
構造地質学	前	嶋本利彦・山路 敦
地層学	後	山路 敦・前田晴良
地球年代学	後	田上高広
岩石レオロジー	後	嶋本利彦
岩石学実験I	前	河上哲生・平島崇男
岩石学実験II	後	平島崇男・河上哲生
結晶学演習	前	下林典正
地質科学野外巡検I	随時	教員多数
地質科学野外巡検II	集中	教員数名
地球テクトニクス実験	後	嶋本利彦・田上高広・堤 昭人・山路 敦・石川尚人
古生物学実験	後	前田晴良・松岡廣繁・成瀬 元・大野照文
鉱物学特論	前	北村雅夫
惑星科学基礎論	後	山路 敦・北村雅夫・町田 忍
変成岩岩石学	前	平島崇男
地史学	前	前田晴良・山路 敦
鉱物学実習	前	三宅 亮
地質学機器分析法実習	随時	小畑正明・河上哲生
実験岩石力学	前	嶋本利彦
実験岩石力学実習	前	堤 昭人・嶋本利彦
理論テクトニクス特論	前	山路 敦
地球年代学実験	随時	田上高広
地球・惑星科学II	後期	平島崇男・下林典正・前田晴良
地質科学通論	通年	嶋本利彦・前田晴良・小畑正明・山路 敦
グローバルテクトニクス	後期	田上高広・古川善紹
基礎地球科学実習	随時	田上高広・前田晴良・下林典正・堤 昭人・松岡廣繁・三宅 亮・成瀬 元・河上哲生
生物圏進化史	後期	大野照文・松岡廣繁

全学共通科目

科 目	前・後	担 当 教 官
Visual 地球科学概説	前	久家慶子 (分担)
Visual 地球科学演習	前	久家慶子 (分担)
固体地球セミナー	前	平島崇男
少人数セミナー (ポケットゼミ) 「海と気候の科学」	前	淡路敏之
少人数セミナー (ポケットゼミ) 「太陽・地球・惑星の科学」	前	町田 忍 (分担)
地球生物圏史セミナー	前	前田晴良
地球科学実験 A	前	石岡圭一・河上哲生・齊藤昭則・田上高広・ 成瀬 元・三宅 亮 (分担)
プラズマ科学入門	前	町田 忍 (分担)
Field 地球科学 B	後	平島崇男・田上高広・松岡廣繁 (分担)
地球科学実験 B	後	西憲敬
地球テクトニクス基礎セミナー	後	嶋本利彦・堤 昭人
地球物理学セミナーI	後	石岡圭一
低温科学 B	後	福田洋一 (分担)

2.1.2 課題演習

課 題 名	担 当 教 官
DA 固体地球系	教員多数
DB 流体地球系	教員多数
D1 重力と地殻変動	福田洋一・藤森邦夫・東敏博
D2 地球内部と地震発生	平原和朗・中西一郎・久家慶子・柳谷俊(防)・ 澁谷拓郎(防)
D3 地下構造と活構造・地表変動	堤浩之・竹村恵二(別)・赤松純平(防)・ 福岡浩(防)・岩田知孝(防)
D4 地球熱学	古川善紹(阿)・柴田和之(別)・川本竜彦(別)・ 山本順司(別)
D5 海洋構造と変動システム	淡路敏之・秋友和典・根田昌典・石川洋一
D6 気象学総合演習	余田成男・石岡圭一・内藤陽子・大沢信二(別)・ 林泰一(防)・石川裕彦(防)
D7 地球磁気圏の構造と波動現象	町田忍・家森俊彦(磁)・田中良和(阿)・亀井豊永 (磁)・竹田雅彦(磁)・齊藤昭則・能勢正仁(磁)
D8 気候システムと気候物理	里村雄彦・西憲敬
E1 地質科学研究法 1	山路 敦・前田晴良・松岡廣繁・成瀬 元
E2 地質科学研究法 2	平島崇男・下林典正・田上高広・三宅 亮・堤 昭人・ 小畑正明・河上哲生

・2006年度登録者（地球物理学分野）……（総計27名）

D-A. 白木雄大・湯浅拓也・川田健晴・横山剛・江藤英樹・松本全史・金甫根・
日比野研志・隅田勝将・小出健人・広瀬民志・今野暁

D-B. 金甫根・日比野研志・隅田勝将・林奈央・小出健人・山梨裕美・木幡邦彦
仮野靖・広瀬民志・今野暁・湯浅拓也・江藤英樹・松本全史・鈴木裕司・
川勝敦夫

・2006年度登録者（地球物理学分野）……（総計29名）

D1 小出健人，横山剛

D2 江藤英樹，川田健晴，隅田勝将，林奈央

D3 木幡邦彦，白木雄大，松本全史，山梨裕美

D4 金甫根，日比野研志，広瀬民志，湯浅拓也

D5 仮野靖

D6 小出健人，木幡邦彦，林奈央，日比野研志，湯浅拓也

D7 江藤英樹，川勝敦夫，鈴木裕司，山梨裕美

D8 金甫根，隅田勝将，広瀬民志，松本全史，今野暁

・2006年度登録者（地質学鉱物学分野）……（総計9名）

- E1. 橘高良徳・山口勇央・佐藤洋樹・似吹大・吉村美早紀・家郷裕介・柴田弘毅・秦弘基・松井響子
- E2. 橘高良徳・山口勇央・佐藤洋樹・似吹大・吉村美早紀・家郷裕介・柴田弘毅・鎌苅裕紀・坂田周平

・2007年度登録者（地球物理学分野）……（総計38名）

- D-A. 秋谷祐亮・榎原賢一・加藤隆太・加納将行・黒岩健一・高麗正史・国立翠
渋谷航平・瀧口正治・田中翔吾・原田昌・原田裕己・福井堯・真上薫・
南拓人・矢田大樹・渡邊俊一・平澤寅庄
- D-B. 秋谷祐亮・榎原賢一・加藤隆太・加納将行・栗原和明・黒岩健一・高麗正史・
国立翠・渋谷航平・瀬尾瑞人・瀧口正治・田中翔吾・原田昌・原田裕己・福井堯・真上薫・
南拓人・峰山大・矢田大樹・渡邊俊一

・2007年度登録者（地質学鉱物学分野）……（総計13名）

- E1. 倉橋孝幸・牲川菜月・中山俊彰・伊神洋平・磯部翔太郎・山田純輝・米村心平・中村文・
新名庸生・吉本麻里・木村誠・吉川大樹・延寿寺秀朗

2.1.3 課題研究

課 題 名	担 当 教 官
T1 惑星間空間物理	町田忍・家森俊彦(磁)・竹田雅彦(磁)・能勢正仁(磁)
T2 地球電磁場	町田忍・田中良和(阿)・亀井豊永(磁)・齊藤昭則
T3 大気物理	余田成男・石岡圭一・内藤陽子
T4 気候物理	里村雄彦・西憲敬
T5 海洋物理	淡路敏之・秋友和典・根田昌典・石川洋一
T6 地震・地球内部	平原和朗・中西一郎・久家慶子
T7 測地	福田洋一・藤森邦夫・東敏博
T8 地表変動・固体地球物理・火山物理	堤浩之・竹村恵二(別)・須藤靖明(阿)
T11 地球テクトニクス	嶋本利彦・田上高広・堤昭人
T12 岩石学	小畑正明・平島崇男・河上哲生
T13 鉱物学	北村雅夫・下林典正・三宅亮
T14 地層学	前田晴良・成瀬元
T15 地史学	山路敦・松岡廣繁

・2006年度登録者（地球物理学分野）（総計20名）

- T1 松本裕治
- T2 高木悠・松村充
- T3 齊藤直彬・山本博基
- T4 伊藤正樹・山崎弘恵・山本剛嗣
- T5 仁科慧・田中裕介
- T6 安部祐希・オノ木順太・浦田優美・下崎基裕
- T7 長谷川崇・大塚昌弘・藤原和史
- T8 福井理・垣内佑哉・熊谷仁孝

・課題研究の題目

- T2 高木悠 アラスカでのMSTIDの解析.
- 松村充 微気圧変動の観測と地磁気脈動.
- T3 齊藤直彬 回転系の水平シア流中に生じる熱対流の数値計算.
- 山本博基 軸対称モデルにおけるハドレー循環に関する研究、および温暖化研究から見たモデルの階層性に関するレビュー.
- T4 伊藤正樹 温帯低気圧発達とSST分布との関連性についての惑星間実験.
- 山崎弘恵 Sjaaved Cell法によるz座標系高解像度非静力学モデルの開発.
- T5 仁科慧 混合水域における中規模変動の力学解析・予測可能性に関する研究 -潮位観測値との比較による統合データセットの検討-
- 田中裕介 風成循環に現れる中規模変動と、循環の南北非対称性に関する研究.
- T6 安部祐希 レシーバ関数による阿蘇の地下構造探査.
- オノ木順太 三陸沖をモデルとしたアスペリティ相互作用による地震発生サイクルへの影響.
- 浦田優美 摩擦発熱を考慮した破壊伝播の計算--流体の分布が不均質な場合--.
- T7 長谷川崇 GRACEで検出された2004年スマトラ・アンダマン地震による重力場変動.
- T8 福井理 個別要素法による粒状体材料の定体積直接せん断試験の再現.

垣内佑哉 琵琶湖西岸断層帯の上下変位量分布に関する研究.
熊谷仁孝 分子動力学計算を用いたNaCl水溶液の観察.

・2006年度登録者（地質学鉱物学分野）（総計16名）

T11 山名泰隆・辻本敦之
T12 山田隼史
T13 崎山智昭・相馬伸洋・河内悠紀・丸山裕子・後藤頼友・鳥越洋平
T14 木村剛太・川上展弘
T15 池田昌之・田村茂樹・加藤弘毅・山下翔大・横山禄洋

・2007年度登録者（地球物理学分野）（総計20名）

T1 江藤英樹・加藤龍一
T2 金甫根
T3 今野暁・湯浅拓也・隅田勝将
T4 日比野研志・広瀬民志・松本全史・山本剛嗣
T5 小出健人・仮野靖
T6 川田健晴・下崎基裕
T7 横山剛・白木雄大・大塚昌弘・藤原和史
T8 木幡邦彦・山田有生

・2007年度登録者（地質学鉱物学分野）（総計17名）

T11 柴田宏毅・鎌苅裕紀・河内悠紀・坂田周平・佐藤洋樹・林 奈央
T12 似吹大・家郷裕介・山口勇央
T13 橘高良徳・藤本理有・松井響子・柳瀬隆文・後藤頼友
T14 木村剛太・横山禄洋
T15 吉村美早紀

2.1.4 学生進路

地球物理学分野

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻進学 14名

京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会環境科学専攻進学 1名

地質学鉱物学分野

池田昌之

加藤弘毅

崎山智昭

田村茂樹

辻本敦之

山田隼史

山名泰隆

山下翔大

2.2 大学院

2.2.1 特別講義

- ・雲・降水の数値モデリング
坪木和久 (名古屋大学 地球水循環研究センター)
- ・活断層とその評価
今泉俊文 (東北大学 大学院 理学研究科)
- ・高温プラズマとイオン性物質の分子動力学シミュレーション
田中基彦 (核融合科学研究所 連携研究推進センター)
- ・火山砕屑岩の科学 (大学院対象)
鹿野和彦 (独立法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門)
- ・日本列島形成史 (学部・大学院対象)
大藤 茂 (富山大学 理学部 地球科学科)
- ・隕石・宇宙塵の鉱物科学 (学部・大学院対象)
野口高明 (茨城大学 理学部 自然機能科学科)
- ・水岩石相互作用—地熱系と断層帯を中心として— (学部・大学院対象)
藤本 光一郎 (東京学芸大学 教育学部)
- ・岩石学特論 (学部・大学院対象)
荒井 章司 (金沢大学 自然科学研究科)

2.2.2 大学院学生：所属分科，指導教授，学年，氏名，研究題目 (地球物理学分野)

・測地学及び地殻変動論分科

測地学講座 (福田洋一)

- | | | |
|-----|---------|---------------------------------|
| 博－3 | 山本圭香 | 衛星重力ミッションデータを用いた地球重力場の研究 |
| 博－2 | ソジヤ コスマ | インドネシアの標高システムと海水準変動に関する研究 |
| 修－2 | 由井智志 | 神岡鉱山での地球物理観測データによる地球内部ダイナミクスの研究 |
| 修－2 | 竹野晶子 | GPSデータを用いた地殻変動の研究 |
| 修－2 | 吉田恵理 | 超伝導重力計データによる地球内部ダイナミクスの研究 |
| 修－2 | 大西敏樹 | 神岡鉱山での地球物理観測データによる地殻変動の研究 |
| 修－1 | 上野悟志 | 精密重力測定による地下水変動の研究 |
| 修－1 | 竹村 啓 | 超伝導重力観測による重力経年変化の研究 |

・地震学及び地球内部物理学分科

地震学講座 (中西一郎)

- 博-6 岡本大志 線型システムの離散Wavelet解析
修-2 上垣拓郎 マントルの異方性構造

地震学講座 (平原和朗)

- 博-2 伊良部秀輔 干渉法を用いた地殻内不均質構造のイメージング
修-1 三井雄太 地震発生サイクルシミュレーション
修-1 小河和雄 地殻および上部マントル地震波不連続面の構造研究

地震学講座 (久家慶子)

- 博-2 ジャネット・マハソ 地球深部の地震について
修-2 岡上雄介 数値計算によるマントル構造の解析

防災研・地震予知研究センター (梅田康弘)

- 修-2 山口慎司 地震の初期破壊の物理過程に関する研究

防災研・地震予知研究センター (橋本 学)

- 修-2 豊田暁来 西南日本の地殻内応力場とひずみ場の推定
修-1 片木 武 GPSによる地震前後の地殻変動の研究

防災研・地震予知研究センター (川崎一朗)

- 博-3 白 玲 南海トラフの地震震源分布の精密決定とそのテクトニックな意味

防災研・地震予知研究センター (柳谷 俊)

- 修-1 乗松君衣 極々微小地震の研究

防災研・地震予知研究センター (飯尾能久)

- 修-2 川西里枝 微小地震データを用いた地震発生過程の研究
修-2 野田俊太 微小地震データを用いた地殻応力場の研究
修-1 石黒竜一朗 地震断層の研究

防災研・地震予知研究センター (澁谷拓郎)

- 修-1 鈴木麻希子 (休)

防災研・地震予知研究センター (伊藤 潔)

- 博-4 上野友岳 地震の移動現象と地殻内の流体

防災研・地震発生機構研究分野 (James. J. Mori)

- 博-3 朴 舜千 深発地震の発生機構
博-1 アンドリアスガラハ 九州地方のQトモグラフィー
修-1 日浦 一 日本における前震の特性
修-1 西辻陽平 地震断層運動による発熱の研究

・火山物理学分科

防災研・桜島火山活動研究センター (井口 正人)

- 博-2 ステイアゲイシ 長期間の静穏期にあるグントール火山におけるマグマ

供給システムの研究

博一 1 ハッティリアスティ モノクロマティック微動の発生機構に関する研究

・地殻物理学及び活構造論分科

活構造学講座（堤 浩之）

修一 2 末岡 茂 活構造学

修一 2 山本晋也 活構造学

地球熱学研究施設（竹村恵二）

修一 2 三根崇彦 活構造学

防災研・強震動研究分野（岩田知孝）

博一 3 浅野公之 震源の動力学に基づく広帯域強震動生成過程に関する研究

博一 2 鈴木 亘 広帯域強震動シュミレーションによる震源過程の推定に関する研究

博一 1 栗山雅之 活断層情報を考慮した強振動評価のための震源断層モデルの高度化に関する研究

修一 2 白川智香子 強震動地震学

修一 1 岩城麻子 強震動地震学

・環境地圏科学分科

防災研・斜面災害研究センター（佐々恭二）

博一 3 イシグラチエフ 粘土鉱物と間隙水圧発生挙動の特性

博一 2 ジョセフ・ユルロ Cyclic and monotonic Liquefaction potential in silty material

博一 1 エカテリナゲオルギエバ 植生による浅層崩壊発生抑止効果に関する研究

博一 1 斉藤龍太 地すべりから流動への相変化過程

修一 2 尾川七瀬 モデル土層実験による豪雨時の地すべり発生機構の研究

修一 2 南谷太一 リングせん断試験機による地すべり発生危険度予測の研究

防災研・斜面災害研究センター（福岡 浩）

修一 1 柴田鏡子 降雨による斜面崩壊発生過程に関する研究

修一 1 戸敷英史 地質特性とすべり面挙動に関する研究

防災研・山地災害環境分野（千木良雅弘）

博一 3 土志田正二 詳細デジタル地形データを用いた地形解析

博一 2 戸邊勇人 風化花崗岩類の崩壊に関わる諸性質とその成因

博一 1 山崎新太郎 堆積岩の化学的風化のメカニズム

修一 2 川原千夏子 浅海堆積物の降雨による崩壊メカニズムとその発生場の地質的制約

- 修-1 根木菜摘 六甲山系の花崗岩風化と地形発達
- 修-1 松澤 真 和泉層群砂岩の風化と降雨による崩壊メカニズム
- 修-1 松本充弘 中央構造線に隣接する和泉層群の山体変形と地すべり
- 防災研・山地災害環境分野 (諏訪 浩)
- 修-1 中屋志郎 岩屑なだれと土石流の地球物理学的研究
- 防災研・傾斜地保全研究分野 (Roy C. Sidle)
- 博-1 キルミロビッチ 地すべり土塊内部の材料均一性およびせん断ゾーンにおける粒経分離が地すべり運動におよぼす影響について
- 博-1 コザムレサジヨアイ How forest roads modify groundwater response to rainfall: implications for slope stability
- 修-3 上野全保 規模が異なる人工林流域における降雨流出応答の研究
- 修-3 山尾深佳 豪雨時の土砂生産に及ぼす林道の影響
- 修-1 ダニエルワテ Assessment of Runoff Generation from Adjacent Zero-order Catchments, Fudoji-Japan

・海洋物理学分科

海洋物理学講座 (淡路敏之)

- 修-3 土肥具彦 エルニーニョ変動の解析と予測
- 修-2 木内保太 熱帯大気海洋結合モデル解析
- 修-1 小林弘幸 熱帯インド洋南東部と暖水プールの海洋上層の温度構造の変動
- 修-1 山西孝宜 北太平洋物質循環マッピングに関する研究

海洋物理学講座 (秋友和典)

- 博-3 坂本 圭 極海域における底深層水形成
- 修-2 三崎伸吾 海洋物理学
- 修-1 古賀純隆 (休) 海洋物理学

・気象学・気候学及び大気物理学分科

気象学講座 (余田成男)

- 博-3 郡司博史 回転球面上の減衰乱流に関する室内実験
- 博-1 大塚成徳 熱帯対流圏中層の層状構造に関する研究
- 修-2 仲本康浩 気象力学
- 修-1 伊藤耕介 気象力学
- 修-1 田口満代 気象力学

気象学講座 (石岡圭一)

- 修-2 増田敬太 気象力学
- 修-2 石川真也 気象力学

修一 1 村上振一郎 気象力学

修一 1 佐々木俊輔 気象力学

物理気候学講座（里村雄彦）

博一 6 濱田 篤 熱帯擾乱力学

博一 5 中田淳子 気候と生態系との相互作用の研究

博一 4 風岡 亮 大気中のエアロゾルの輸送と分布に関する研究

修一 3 中村光邦（休） 物理気候学

修一 3 大内田健（休） 物理気候学

修一 3 木村仁美 物理気候学

修一 2 小郷原一智 物理気候学

修一 2 杉埜水脈 物理気候学

修一 2 寺田昌弘 物理気候学

修一 1 西尾裕一 物理気候学

修一 1 北見佳史 物理気候学

修一 1 西谷 諒 物理気候学

防災研・暴風雨・気象環境研究分野（石川裕彦）

修一 2 篠原瑞生 応用気象に関する研究

修一 2 滝口美絵 応用気象に関する研究

修一 2 塚原和歌子（休） 応用気象に関する研究

修一 1 宮本佳明 応用気象に関する研究

修一 1 南 広樹 応用気象に関する研究

修一 1 阿部 良 応用気象に関する研究

防災研・災害気候研究分野（岩嶋樹也）

修一 2 高橋 誠 局地気候に関する研究

修一 1 正木岳志 応用気象学

修一 1 伊藤晋悟 応用気象学

防災研・災害気候研究分野（向川均）

修一 3 吉田裕一 大気運動の予測可能性に関する研究

修一 2 木村和紀 大気大規模運動の力学と予測可能性

修一 1 林麻利子 応用気象学

修一 1 風本圭佑 応用気象学

防災研・流域災害研究センター（関口秀雄）

博一 1 山口直文 沿岸地形における波浪堆積構造

防災研・流域災害研究センター（林泰一）

博一 3 山根悠介 南アジアにおけるメソ気象擾乱の研究

修一 2 玉置真也 応用気象に関する研究

修一 2 水島彰宏 境界層における大気海洋相互作用

修-1 玉井恭平 応用気象に関する研究

修-1 津島俊介 応用気象に関する研究

生存圏研究所・レーダー大気圏科学分野（深尾昌一郎）

博-3 梅本泰子 ウインドプロファイラーを用いた梅雨期降水システムの
形成・維持における地形効果の研究

修-1 田畑悦和 赤道大気レーダーによる赤道大気運動の観測的研究

生存圏研究所・大気圏環境情報分野（塩谷雅人）

博-5 鈴木順子 赤道ケルビン波活動性の時空間変動とその要因に関する
研究

博-5 高島久洋 熱帯対流圏界面領域の構造を決める諸過程に関する研
究

博-3 中前久美 エアロゾルの全球分布と地球の気候への影響

博-3 神代 剛 下層雲の形成と分布に関わる大気物理過程の解明

博-2 小石和成 熱帯対流圏界面近傍の水蒸気変動に関する解析的研究

修-2 栗林晴男 大気微量成分の輸送に関する研究

生存圏研究所・大気圏精測診断分野（津田敏隆）

修-2 幣 隼人 赤道大気の変動に関する観測的研究

・地球熱学分科

地球熱学研究施設・火山研究センター（鍵山恒臣）

修-2 小森省吾 電磁気学的探査による地下浅部の熱水分布・流量の推定

地球熱学研究施設・火山研究センター（大倉敬宏）

修-2 岡本 響 九州下のマントルウエッジの地震波速度構造に関する研究

地球熱学研究施設・火山研究センター（古川善紹）

修-1 澤井啓吾 マグマ形成過程における流体相の挙動

・太陽惑星系電磁気学分科

地球電磁気学講座（町田 忍）

博-5 藤田信幸 高時間分解能データを用いた極域地磁気変化の微細構造の研究

博-3 下田忠宏 飛翔体による電子の観測および物理過程に関する研究

博-2 永田大祐 プラズマシート境界層における質量、エネルギー輸送の統計的研究

博-1 金田香織 金星および火星の電離圏と太陽風の相互作用に関するシミュレー
ション研究

博-1 ニワツトウ チュサカンGPS観測データを用いた電離圏電子密度の空間3次元構造とそ
の時間変動に関する研究

修-4 小田耕平（休） 太陽惑星系電磁気学に関する研究

修-2 酒巻厚志 ASPERA-3/MEXデータを用いた火星周辺における惑星起源重イオン

- に関する研究
- 修-2 小野友督 サブストーム時のプラズマシートにおけるH⁺, O⁺イオンの加速機構について
- 修-2 橘 亮匡 GPS観測データを用いた電離圏全電子数における短周期変動の解析
- 修-1 岡本俊太 極域短波レーダーとGPSの同時観測による高緯度電離圏擾乱の解析
- 修-1 村上尚美 冬期昼間における電離圏プラズマ密度変動の観測ロケットによる観測
- 修-1 五井 紫 低軌道衛星搭載データを用いたプラズマ圏電子密度構造の研究
- 地磁気世界資料解析センター (家森俊彦)
- 博-1 西岡未知 地上観測データを用いたプラズマ・バブルの生成機構の研究
- 修-2 九里崇博 磁気嵐主相・回復相での極域電離層イオン流出の異なる描像
- 修-2 寺本万里子 極軌道衛星DE-1によって広範囲で観測されたPi2地磁気脈動の励起機構の解明

・地球内部電磁気学分科

防災研・地震テクトニクス研究分野 (大志万直人)

- 修-2 岡田靖章 阿蘇カルデラ周辺での地殻比抵抗構造の研究
- 修-2 畑 真紀 MT法による活断層周辺の比抵抗構造に関する研究
- 修-2 長野雄大 紀伊半島の地殻比抵抗構造に関する研究
- 修-1 南賢一郎 野島断層注水実験に伴う流動電位変動に関する研究

防災研・地震テクトニクス研究分野 (西上欽也)

- 博-2 土井一生 西南日本の地震発生域における不均質構造の解明

(地質学鉱物学分野)

・地球テクトニクス分科 (嶋本利彦)

- 博-3 Raehee Han
- 博-2 相澤泰隆
- 博-2 野田博之
- 修-2 松浦広学
- 修-1 Nicolas Burantut

(田上高広)

- 博-1 山崎誠子
- 修-2 澤田遼太郎
- 修-1 吉良仁志
- 修-1 小澤高志

・地球物質科学分科

鉱物学 (北村雅夫・下林典正・三宅亮)

- 博-2 野々垣雅稔
- 博-1 大井修吾
- 修-2 麻生真吾
- 修-2 高谷真樹
- 修-2 柏木淑子
- 修-1 金尾亮
- 修-1 野本哲也
- 修-1 金子敦志
- 修-1 道浦綾

岩石学 (小畑正明)

- 博-1 星出隆志
- 修-2 上田匡将
- 修-2 亀井 陽

(平島崇男)

- 博-3 小林記之
- 博-3 松本啓作
- 博-3 苗村康輔
- 修-2 藤本善航
- 修-2 久島紘樹
- 修-2 田中 蘭

・地球生物圏史分科

地層学・古生物学 (前田晴良・成瀬 元)

- 博-3 御前明洋
- 博-3 藤野滋弘
- 博-3 斎藤 有
- 博-3 高川智博
- 博-3 西村智弘
- 博-3 松本 弾
- 博-2 佐藤智之
- 博-2 野村真一
- 博-1 熊谷太朗
- 修-2 荷福 洸

- 修-2 谷口 綾
- 修-2 秋山美奈子
- 修-2 笹島宗憲
- 修-1 上田直人
- 修-1 上田 純

地史学 (山路 敦・松岡廣繁)

- 博-3 冨田 智
- 博-3 佐藤活志
- 博-2 半田岳士
- 修-2 細川雅俊
- 修-2 多田敏夫
- 修-2 田中さつき
- 修-1 引地原野
- 修-1 河本倫明
- 修-1 赤木啓人
- 修-1 寺島容子
- 修-1 北川博道
- 研究生 平澤 聡

地層学・古生物学 (前田晴良・成瀬 元)

- 修-2

地史学・古生物学 (松岡廣繁)

総合博物館 (大野照文)

- 博-1 沼波 信
- 修-1 一田昌宏

2.2.3 大学院修士課程入学者

・入学試験（2006年8月7-9日実施）

地球物理学分野

志願者数：68名 合格者：56名（含辞退者等：12名）

分 科 名	氏 名
測地学及び地殻変動論	長谷川崇
海洋物理学	仁科 慧
〃	田中裕介
地震学及び地球内部物理学	北脇裕太
〃	藤野宏興
〃	川口勇介
〃	縣 寿之
〃	有本美加
〃	由井裕一
〃	浦田由美
〃	才ノ木順太
環境地圏科学	高橋優子
〃	平石成美
〃	樋口衡平
〃	古林竜治
気象学・気候学及び大気物理学	伊藤正樹
〃	山崎弘恵
〃	山本恵子
〃	西本絵梨子
〃	石塚隼也
〃	上西未起
〃	川端康弘
〃	隈部康晴
〃	齊藤直彬
〃	櫻井溪太
〃	中道啓輔
〃	三上 彩
〃	山本博基

太陽惑星系電磁気学	青山 聡
〃	小川恵美子
〃	松村 充
〃	矢野真理子
地殻物理学及び活構造論	石村大輔
〃	岩部智紗
〃	垣内佑哉
〃	熊谷仁孝
〃	澤崎絵理子
〃	西川泰平
地球熱学	宇内克成
地球内部電磁気学	高木 悠
火山物理学	安部祐希
〃	立尾有騎
陸水物理学	秋山裕二
〃	岡野和行

出身大学内訳：

京都大17名、神戸大5名、大阪市立大3名、九州大3名、愛媛大2名、大阪大2名、東京理科大2名、岡山
大1名、鹿児島大1名、滋賀大1名、上智大1名、信州大1名、富山大1名、長崎大1名、名古屋大1名、姫
路工業大1名、北海道大1名

地質学鉱物学分野

志願者数：27名 合格者：13名（含辞退者等：2名）

分 科 名	氏 名
地球テクトニクス分科	吉良仁志
〃	小澤高志
地球物質科学分科	金尾 亮
〃	金子敦志
〃	道浦 綾
〃	野本哲也
地球生物圏史分科	赤木啓人
〃	引地原野
〃	一田昌宏
〃	河本倫明
〃	北川博道
〃	寺島容子
〃	上田 純
〃	上田直人

- ・ 留学生（修士）入学者
な し

2.2.4 大学院博士後期課程進学・編入学者

・進学・編入学試験(2007年2月21日-2月22日実施)

地球物理学分野

志願者数：9名 受験者数：9名 合格者数：9名

分科名	氏名
測地学及び地殻変動論	由井智志
地震学及び地球内部物理学	野田俊太
地殻物理学及び活構造論	末岡 茂
気象学・気候学及び大気物理学	小郷原一智
地球熱学	小森省吾
太陽惑星系電磁気学	小野友督
〃	橘 亮匡
〃	寺本万里子
地球内部電磁気学	畑 真紀

出身大学院内訳：京都大学大学院理学研究科9名、他なし

地質学鉱物学分野

志願者数：8名 受験者数：8名 合格者数：8名

分科名	氏名	出身大学
地球テクトニクス	山崎誠子	熊本大学大学院・理
	Nicolas BURANTUT	京都大学大学院・理
地球物質科学	星出隆志	京都大学大学院・理
	大塚和彦	京都大学大学院・理
	大井修吾	京都大学大学院・理
地球生物圏史	熊谷太郎	京都大学大学院・理
	沼波 信	京都大学大学院・理

・留学生(博士)入学者
なし

2.2.5 研修員・研究生・COE研究員・日本学術振興会特別研究員 (PD)

地球物理学分野

氏名	研究題目 (期間)
(研修員)	
北田 直人	地表断層と深部起震断層の三次元可視化及び相関関係の検討 H18. 4. 1～H18. 10. 31
杉戸 信彦	逆断層による地形・地質構造の発達と古地震活動に関する研究 H18. 4. 1～H18. 6. 30
中串 孝志	惑星エアロゾル-大気環境間の相互作用の解明 H18. 4. 1～H19. 3. 31
吉田 大紀	磁気圏界面の大規模変動に関する研究 H18. 4. 1～H19. 3. 31
奥山 哲	D-InSAR による火山性地殻変動の検出 H18. 5. 16～H18. 11. 26
(COE 研究員)	
木口 雅司	アジアモンスーン域におけるプレモンスーン期の降水現象と大気陸面相 相互作用の果たす役割に関する研究 H18. 4. 1～H18. 8. 31
早河 秀章	神岡レーザー伸縮計による長期間ひずみデータの解析 H18. 4. 1～H19. 3. 31
(日本学術振興会特別研究員 [PD])	
北村 祐二	メソスケール大気におけるエネルギーの分布と形成過程に関する研究 H18. 4. 1～H19. 3. 31

地質学鉱物学分野

氏名	研究題目 (期間)
(研修員)	
山田 国見	主に希ガスやウラン系列の放射壊変を用いた年代学・熱年代学的研究 H18. 4. 1～H19. 3. 31
鹿野 雄一	断崖における地質学的特性と生態学的特性に関する研究 H18. 4. 1～H19. 3. 31
中川 良平	洞窟堆積物から発見される脊椎動物群集の年代を化学的分析によって 推定する研究 H18. 4. 1～H19. 3. 31

楠橋 直 アジアにおける中生代哺乳類の多様性と進化および哺乳類を含む中生代陸上脊椎動物相の変遷に関する研究

H18. 4. 1～H18. 6. 30

(日本学術振興会特別研究員〔PD〕)

廣瀬 丈洋 プレート境界物質の摩擦・変形・透水実験に基づく新しい海溝型地震発生モデルの構築

H18. 4. 1～H19. 3. 31

(COE研究員)

田中 源吾 カンブリア紀の節足動物の眼の機能と進化

(研究生)

曾根 大貴 車籠埔及びサンアンドレアス断層のレオロジーと地震の発生過程

H18. 4. 1～H19. 3. 31

松浦 俊輔 ジルコン中のフィッショソ・トラック年代における等温加温実験

H18. 4. 1～H19. 3. 31

平澤 聡 福井県九頭竜湖周辺地域に分布する手取層群の年代測定および層序の再検討

H18. 4. 1～H19. 3. 31

2.2.6 学位

2.2.6.1 修士

地球物理学分野

NO	氏名	論 文 題 目
1	石川真也	ベナール対流と積雲対流の関連について
2	大西敏樹	神岡鉱山における地球物理観測に及ぼす気圧荷重の影響
3	岡上雄介	南米大陸 南緯 20 度付近における地殻及び上部マントル構造
4	岡田靖章	AMT 法を用いた九重火山の浅部比抵抗構造の推定
5	岡本 響	九州地方中南部におけるフィリピン海スラブ内地震活動
6	尾川七瀬	斜面土層を用いた地すべり土塊による斜面下部堆積物の急速載荷と移動に関する研究
7	小郷原一智	火星ダストストームの拡大に対する Hellas 盆地の効果
8	小野友督	サブストーム時のプラズマシートにおける H ⁺ , O ⁺ イオンの加速機構について
9	上野全保	一林相の異なる森林斜面における表面流および表面侵食の特性一

- 10 上垣拓郎 巨大近地・遠地地震による体積歪波形の解析
- 11 川西里枝 2000年鳥取県西部地震域における応力場の推定
- 12 川原千夏子 未固結浅海堆積物の降雨による崩壊発生場の地質的制約—更新統下総層群の事例—
- 13 木内保太 短周期大気海洋相互作用における海洋混合層過程の役割について
- 14 木村和紀 2005/06年冬季の北半球環状モード変動の予測可能性について
- 15 木村仁美 ヒマラヤ南部に降水をもたらす擾乱に関する研究
- 16 九里崇博 磁気嵐主相・回復相での極域電離層イオン流出の異なる描像：IMAGE/LENA統計解析からの推測
- 17 栗林晴男 熱帯東部太平洋における大気境界層内のオゾン変動
- 18 小森省吾 火山体浅部における比抵抗構造と熱水
- 19 酒巻厚志 ASPERA-3/MEXデータを用いた火星周辺における惑星起源重イオンの空間・速度分布及び加速機構に関する研究
- 20 篠原瑞生 台風の強度変化と海洋貯熱量の関係
- 21 白川智香子 3次元小スパンアレイ地震観測記録を用いた京都盆地東端部の地震動特性評価
- 22 末岡 茂 フィッショソ・トラック法に基づく六甲山地の変動史に関する研究
- 23 杉埜水脈 インドシナ半島を西進する台風の循環に関する研究
- 24 高橋 誠 冬季、東シナ海・日本南方海域における温帯低気圧の発生に関する気候学的研究
- 25 滝口美絵 MTSAT-1Rデータを用いた $3.7\mu\text{m}$ 雲反射率の算出
- 26 橘 亮匡 GPS観測データを用いた電離圏全電子数における5分以下短周期変動の解析
- 27 玉置真也 CPEA-II期間における西スマトラ州の局地循環と対流活動に伴う日変化
- 28 寺田昌弘 大阪平野北部で組織化する線状降水帯に関する数値実験
- 29 寺本万里子 極軌道衛星DE-1によって広範囲で観測されたPi2地磁気脈動の励起機構の解明
- 30 豊田暁来 2000年鳥取県西部地震発生に先行するひずみ速度変化とEnergy Indexの時間変化
- 31 仲本康浩 周極渦の崩壊・再生サイクルと予測可能性変動に関する数値実験
- 32 長野雄大 紀伊半島の深部低周波微動発生域周辺の比抵抗構造
- 33 野田俊太 稠密地震観測データを用いた長野県西部地域における地震波速度構造と震源分布
- 34 畑 真紀 Network-MT法による別府-島原地溝帯周辺の大規模比抵抗構造の推定
- 35 幣 隼人 GPS掩蔽データを用いた極域の大気重力波のエネルギー分布の研究
- 36 増田敬太 回転対流の水平スケールについて
- 37 三崎伸吾 山岳高度と成層構造の変化が黒潮の流路変動に与える影響
- 38 水島彰宏 沿岸域におけるバルク係数の観測的研究

- 39 南谷太一 土の三次クリープ変形に影響を及ぼすパラメーターに関する実験的研究
- 40 三根崇彦 土壌 CO₂ フラックスを指標とする、地熱活動の評価について
——別府地域を例として——
- 41 山尾深佳 鹿児島県シラス地帯の斜面崩壊と降雨の関係
- 42 山口慎司 大規模破壊に先行する小規模破壊の特徴
-2005年福岡県西方沖地震と2000年鳥取県西部地震を例に-
- 43 山本晋也 重力探査による亀岡盆地の伏在断層と基盤形状に関する研究
- 44 由井智志 神岡レーザー伸縮計で観測されたスマトラ地震による地球自由振動

地質学鉱物学分野

NO	氏名	論文題目
1	秋山美奈子	白川扇状地における弥生時代の砂層の粒度分析：陸上土石流・Hyperconcentrated流にみられる粒度偏析作用
2	柏木淑子	バナジン酸塩ガーネットのモルフォロジー
3	亀井 陽	チェコ共和国ボヘミア山塊のクフェールグラニュライト中に産するざくろ石-、スピネルかんらん岩の形成過程：温度圧力履歴とかんらん石結晶定向配列からの考察
4	澤田遼太郎	K-Ar年代に対する風化の影響の評価、及びハワイ・カウアイ島沖海底ドレッジ試料に対するK-Ar年代学
5	高谷真樹	大峯酸性岩類川迫岩体に属する花崗斑岩中の長石の微細組織
6	多田敏夫	岐阜県荘川地域の下部白亜系手取層群大黒谷層から産出した幼体翼竜化石と産出層準の堆積環境
7	田中さつき	北海道網走地域の常呂層(後期漸新世)より得られたヘビウ科(鳥綱ペリカン目)の最古の化石記録
8	谷口 綾	堆積物のAMSを利用した粒子配列測定の有効性—走査型電子顕微鏡およびX線CTによる3次元粒子配列解析との比較から—
9	荷福 洸	北海道東部に分布する白亜系最上部(根室層群仙鳳趾層)の古地磁気層序, 生層序および炭素安定同位体比層序
10	藤本善航	高温高圧下における藍閃石片岩の地震波速度測定：沈み込む海洋地殻内の高ポアソン比領域の成因推定
11	久島紘樹	チェコ共和国ボヘミア山塊のクフェールユニットに産する石灰珪質岩の岩石学と流体活動について

2.2.6.2 博士

地球物理学分野

取得者名	専攻合格日	学位授与日	下段に論文題目
中川晃成	2006. 11. 17	2007. 1. 23	

- Methodological advances in ultraviolet spectroscopy of the extended solar corona
 浅野公之 2007.1.31 2007.3.23
 Study on Strong Motion Generation Based on Detailed Analysis of Earthquake Source Rupture Process
- 上野友岳 2007.1.31 2007.3.23
 Subsurface discontinuities derived from receiver function analysis in Southwest Japan: Relation to seismic activity
- 梅本泰子 2007.1.31 2007.3.23
 Studies on Orographic Rainbands Based on Combined Wind Profiler-Weather Radar Observations
- Gratchev Ivan Borisovich 2007.1.31 2007.3.23
 A study on cyclic behavior of fine-grained soils in different pore fluids.
- Sukir Maryanto 2007.1.31 2007.3.23
 Mechanisms of Harmonic Tremors at Sakurajima Volcano, Japan
- Sri Hidayati 2007.1.31 2007.3.23
 Study on Volcano-tectonic Earthquakes at Sakurajima Volcano and its Surrounding
- 白 玲 2007.1.31 2007.3.23
 The 2004 earthquake offshore of the Kii peninsula, Japan: hypocentral relocation, source process and tectonic implication
- 朴 舜千 2007.1.31 2007.3.23
 Rupture Velocities of Large Deep-Focus Earthquakes Surrounding Japan and Their Implication for Source Characteristics
- 山本圭香 2007.1.31 2007.3.23
 Study on Regional Scale Mass Variation Using GRACE Satellite Gravity Data
- 足立アホロ 2007.1.31 2007.3.23
 An observational study of mesoscale phenomena with UHF wind profilers
- 西 憲敬 2007.1.31 2007.3.23
 熱帯域上部対流圏における大気擾乱の構造に関する研究

地質学鉱物学分野

取得者名

下段に論文題目

(平成17年度)

山田国見

Thermochronology using (U-Th)/He dating method: Investigation for effects of secular disequilibrium on (U-Th)/He ages and uplift history of the Tanzawa Mountains in the South Fossa Magna region

谷川 亘

Transport properties and high-velocity frictional behavior of Chelungpu, Shuangtung and Shuichangliu fault zones and their implication for fault motion during 1999 Chi-Chi earthquake

大坪 誠

Depth-dependence of stress revealed by fault-slip analysis in the Niigata fold belt, Japan

楠橋 直

Preliminary Descriptions of Multituberculata mammals From the Lower Cretaceous Kuwajima

Formation (Tetori Group), central Japan, and the Shapai and Fuxin Formations, northeastern China and Evolutionary History of Multituberculates

松永 豪

Definition and implication of a neostratotype of the Upper Cretaceous Yezo Supergroup, northern Japan

中川良平

The latest Pleistocene - Holocene mammalian fossil assemblages from the Hiraodai karst area, Kitakyushu, with a verification of practical effect of fluoride aging method

(平成18年度)

齋藤 有

Grain-size variations of sandy hyperpycnal-flow deposits in lacustrine pro-delta environments

佐藤活志

Reformulation and Improvement of the Stress Tensor Inversion by the Introduction of Deviatoric Stress Space

藤野滋弘

Structure and depositional processes of tsunami deposits in coastal and shallow marine settings

松本啓作

Petrological Study of High-Pressure Metamorphic Rocks in the Sesia Zone, Western Alps: The role of lawsonite on the fluid activity in the subduction zone

御前明洋

Stratigraphy of mid-Cretaceous to Upper Cretaceous System in the Aridagawa area, Wakayama, southwest Japan-Implication of Cretaceous megafossil assemblages in the Aridagawa area

2.2.7 大学院学生進路（地球物理学分野）

・博士課程

京大防災研助教、学振特別研究員（東大2名）、京大防災研非常勤研究員、京大理学研究科研究機関研究員、聖母女学院中学高等学校、(株) 島津理化、(株) 三菱電機

・修士課程

(独) 国際協力機構、(独) 石油天然ガス金属鉱物資源機構、朝日新聞社、(株) 朝日ガラス、(株) アストラゼネカ、(株) イー・アクセス、(株) ヴィンキュラムジャパン、(株) NTTコムウェア、(株) NTTファシリティーズ、(株) 大塚製薬、(株) カシオ計算機、(株) 技研製作所、(株) グリーンキャスト (株) 静岡銀行、(株) ソフトバンクモバイル、(株) 東京海上日動リスクコンサルティング、(株) 東芝 2 名、(株) 西日本電信電話、(株) ニッセン、(株) 日亜化学工業、(株) 日本電気、(株) 日本電産、(株) ビジブル、(株) ビービット、(株) 日立製作所 2 名、毎日新聞社、マッキンゼー・アンド・カンパニー、(株) 三菱商事、UFJIS、京都教育大学附属教育実践総合センター研究生

3. 図書室

3.1 地球物理学分野

※アスベスト撤去工事のため2ヶ月間休室しました。

※平成18年度に購入された雑誌・図書・論文は下記のとおりです。

外国雑誌	45誌 (Canadian Journal of Earth Sciences 購読中止)
国内雑誌・学会誌	10誌 (Earth, Planets and Space 電子版購読追加)
図 書	47冊
製本冊数	154冊 (雑誌の製本のみ)

※電子ジャーナル/データベースについて

電子ジャーナルやデータベースは、学術研究・教育活動を支える情報基盤としてその重要度を高めています。京都大学でも利用できるEJ/DBが年々増えてきており、地球物理学関連の雑誌も、American Geophysical Union発行のものなど数点を除き、ほとんどのタイトルをオンラインで見られるようになりました。

Web of Knowledge、GeoRef (地質・地球物理関係) などといったデータベースも充実し、電子ブックの普及も進められています。

電子ジャーナル、データ・ベース・電子ブックは京都大学図書館機構ホームページから利用できます。

京都大学図書館機構ホームページ

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

電子ジャーナル、データベース・電子ブックの利用資格確認ため、認証システムが導入されることになり、その前段階として教育用コンピュータシステムの利用コード (アカウント) を取得することが必要になりました。

※図書室ホームページについて

新着図書・雑誌の紹介など随時更新しています。

図書室の利用案内や、卒業生の修士・博士論文のリスト、所蔵する雑誌の目録、関係機関へのリンク先なども掲載されています。

文献検索は図書室に常備されている端末機でも利用できます。

雑誌はすべて端末機で検索できます。図書検索は地球物理学教室図書室の場合、1980年までは遡及入力を終了しました。従って1980年から現在までは端末機で検索できます。

地球物理学教室図書室のホームページ

<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/tosho/index.htm>

3.2 地質学鉱物学分野

地球惑星科学地質学鉱物学図書室は1921年に開設されて以来86年にわたり精力的に収集され、保存されてきた資料は、約6万冊、所蔵雑誌は1800タイトルにのぼる。地球科学関係では世界的にも貴重といわれる資料を多数所蔵し、特に古い文献や地質図、報告書類は、日本のみならず世界を通じても当図書室のみが所蔵しているものが数多く揃っていることは広く知られているところである。

さらに、資料の内容は地質学関係の専門領域のみでなく世界の科学史に残る広い範囲の資料も数多く含まれており、これらも当図書室のみが所蔵しているものも多く、世界の文化財的資料である。これらの資料を世界的な地球惑星科学研究拠点にふさわしく、広く国内外の研究者や学生がより利用しやすいように整備し、効率よく活用できる体制で提供していけるようあらゆる図書業務を行っている。

特に近年は、上記のような蔵書の特色や当図書室の役割を踏まえ、所蔵資料のデジタル化による整理と、遡及入力を含めたデータベース化の事業を計画し、21世紀COEプログラム予算や附属図書館からの予算援助を獲得し、事業を推進しているところである。

しかし、経費、人員不足のため、困難をきわめ、事業は未だ道半ばである。

また、上記に特記した世界の文化財的貴重資料の保存、修復事業にも着手し始めなければならないが、いまだ端緒についていない。

さらに、来年度(2008年)始めには当図書室をふくめた建物耐震工事が着手され、それに伴う図書室改造工事が計画されている。現在、それらに向けての下準備を進めているところである。

2006年度実施事業

1. NII（国立情報学研究所総合目録DB）への登録追加、および遡及入力（2560件）
2. 地鉱図書室のオリジナルデータベースの整備
 - * 地鉱全所蔵資料一覧（NII登録以外の資料）の入力及びWEBページ上の公開
 - * 地鉱全所蔵資料の検索システム構築（地鉱図書室内のみWEB公開は未）
 - * 都道府県別に地鉱図書所蔵資料を検索できリストアップできるよう登録追加

cf) 地鉱図書室オリジナルデータベースを整備する意義

現在、資料検索の手段として使われているシステム（Webcat, 京大Opac）は、次のような限界がある。

- a. 著者、タイトル、など探したい資料があらかじめ判っていないと検索できない
つまり、大体こんな内容の資料を探したい という場合の検索ができない。
- b. 地質学鉱物学分野で重要となる情報、例えば探したい対象地域の地質図、図版
類の画像情報などを登録できない。
(現在進めている地質図書オリジナルデータベースでは、都道府県別に地質図書所蔵資料を
検索できるよう登録を行っている)
- c. 全分野が登録されているため、最初からは地質学の分野に絞り込んで検索でき
ない。

3. 貴重資料のデジタル化

- * 附属図書館経費による電子図書館コーナへの掲載実現 (自然科学系では最多の掲載実現)
- * COE 経費による貴重資料類のデジタル化実現 (一部紹介) (KAGI, 及び地質図書 HP への掲載)

4. 京大学術情報公開展示事業への展示内容提案、参加 (自然科学系では最多の展示)

外国雑誌	1304	タイトル		
和雑誌	494	タイトル		
図書	約 60000	冊	(2008 年度 購入図書	37 冊)
製本	265	冊	(2008 年度 保存修復	含む)

4. 各種委員会

地球物理学分野

委員会等名称		氏名
教室	教室主任	平原和朗
	教務	堤浩之
	図書	久家慶子・堤浩之・東敏博・石川洋一・ 内藤陽子・齊藤昭則・西憲敬・銭谷多美
	技術情報	石岡圭一・福田洋一・中西一郎・堤浩之・ 根田昌典・齊藤昭則・西憲敬・高畑武志・ 亀井豊永
	ミニクラス担当	淡路敏之・余田成男・町田忍・平原和朗・ 福田洋一・石岡圭一・中西一郎・久家慶 子・藤森邦夫・家森俊彦
	広報委員	平原和朗・石岡圭一・久家慶子・青木京 子・青島裕美
	大学院学事	町田忍・里村雄彦・齊藤昭則・高畑武志
	環境安全委員会	藤森邦夫・東敏博・根田昌典・吉田裕子
理学部	研究科会議メンバー	町田忍・中西一郎・川崎一朗
	専攻主任	町田忍
	将来計画委員会	余田成男・平原和朗・家森俊彦
	理学部・教育委員会	堤浩之・中西一郎
	環境安全委員会	藤森邦夫
	理学部・広報委員会	中西一郎・里村雄彦
	国際・社会交流委員会	中西一郎
	事務組織・研究支援体制検討委員会	平原和朗
	人権擁護委員会	久家慶子
	図書・出版委員会	久家慶子
	ネットワーク・電子計算機委員会	石岡圭一
	大学院教育教務委員会	秋友和典
	2号館運営委員	西憲敬
	6号館運営委員	町田忍
情報セキュリティー委員会	町田忍	
理学研究協会	町田忍・中西一郎	
全学	全学共通教育システム委員会地学部会	余田成男・秋友和典
	広報委員会	中西一郎
	オープンキャンパス委員会	中西一郎
	評議員・副研究科長	淡路敏之

地質学鉱物学分野

委 員 会 等 名 称		氏 名
教 室	教室主任	小畑正明
	専攻主任	嶋本利彦
	地鉱・地物専攻連絡会	小畑正明・嶋本利彦
	会計	北村雅夫・小畑正明・嶋本利彦・山路 敦・前田晴良
	図書	平島崇男・山路 敦・前田晴良・田上高広・下林典正・那須たみ子・星出隆志
	教務	田上高広・成瀬 元・河上哲生
	X線室	下林典正
	暗室	前田晴良
	教室内ネットワーク	三宅 亮・成瀬 元
	教室内自己点検・評価・(コロキウム)	小畑正明・山路 敦・前田晴良・田上高広・下林典正
	衛生危険物連絡	小畑正明・嶋本利彦・堤 昭人・三宅 亮・松岡廣繁・成瀬 元・河上哲生
	自動車	山路 敦・堤 昭人
	標本	下林典正・堤 昭人・松岡廣繁・成瀬 元・河上哲生
	技術室	平島崇男・下林典正・堤 昭人・成瀬 元 堤 久雄
	紀要	小畑正明・嶋本利彦
	化学分析室	下林典正
	分離室	田上高広
	RI	田上高広
	微量地球惑星分析システム	田上高広
	無機廃液処理担当者	三宅 亮
有機廃液処理担当者	三宅 亮	
教室会議・研究者会議議長	嶋本利彦	
グループ代表	小畑正明・山路 敦・前田晴良・下林典正・堤 昭人	

理 学 部	研究科会議メンバー 将来計画委員会 理学部・教育委員会 環境安全委員会 広報委員会 国際・社会交流委員会 事務組織・研究支援体制検討委員会 人権擁護委員会 図書・出版委員会 ネットワーク・電子計算機委員会 大学院教育教務委員会 北部構内実験排水系モニター槽担当 1号館運営委員 2号館運営委員 6号館運営委員 KUCRUS 委員 専攻連絡会	嶋本利彦・平島崇男 小畑正明・嶋本利彦 山路 敦（全学）・下林典正（理学部） 堤 昭人 山路 敦 下林典正 小畑正明 嶋本利彦 平島崇男 三宅 亮 嶋本利彦 成瀬 元・河上哲生 小畑正明 小畑正明 前田晴良 下林典正 嶋本利彦
全 学	一般教育地学部会	平島崇男

5. 職員名簿

地球物理学分野 (2007年7月1日現在)

教員 :

教授 :

淡路敏之	(海洋物理学)
町田 忍	(地球電磁気学)
余田成男	(気象力学)
中西一郎	(相関地球惑星科学)
平原和朗	(地震学)
里村雄彦	(物理気候学)
福田洋一	(測地学)
(兼) 野田 彰	(物理気候学) (独立行政法人海洋研究開発機構)

准教授 :

秋友和典	(海洋物理学)
久家慶子	(地震学)
堤 浩之	(活構造学)
石岡圭一	(気象力学)

助教 :

東 敏博	(測地学)
根田昌典	(海洋物理学)
西 憲敬	(物理気候学)
齊藤昭則	(地球電磁気学)
内藤陽子	(気象力学)
石川洋一	(海洋物理学)

職員 :

吉田裕子
高畑武志

再雇用事務職員 :

金田久代

事務補佐員 :

青島裕美
銭谷多美

臨時用務員 :

毛利陽子

地質学鉱物学分野（2007年3月1日現在）

教員：

教授：

北村雅夫	(鉱物学)
小畑正明	(岩石学)
平島崇男	(岩石学)
嶋本利彦	(構造地質学・テクトニクス)
田上高広	(地球年代学)
大野照文	(地層学・古生物学) (総合博物館)

准教授：

前田晴良	(地層学・古生物学)
山路 敦	(構造地質学・テクトニクス)
下林典正	(鉱物学)
三宅 亮	(鉱物学)

助教：

松岡廣繁	(地史学・古生物学)
堤 昭人	(構造地質学)
成瀬 元	(地層学)
河上哲生	(岩石学)

職員：

事務室：

西久保有里
入野健志

図書室：

那須たみ子

薄片技術室：

堤 久雄

用務員室：

中江かすみ

付録 1 . 論文・報告書・学会発表

地球物理学分野

◇論文

- Akitomo, K., 2006. Thermobaric deep convection, baroclinic instability, and their roles in vertical heat transport around Maud Rise in the Weddell Sea, *J. Geophys. Res.*, 111, C09027, doi:10.1029/2005JC003284.
- Aoki, S., and K. Akitomo, 2007. Observations of small-scale disturbances of the subantarctic front south of Australia. *Deep-Sea Research I*, 54,320-339.
- Awange, J.L. and Y. Fukuda, 2006. Resultant optimization of the three-dimensional intersection problem. *Survey Review*, 39, 100-108.
- Fujimoto, K. and Machida, S., 2006. A generation mechanism of electrostatic waves and subsequent electron heating in the plasma sheet-lobe boundary region during magnetic reconnection. *J. Geophys. Res.*, 111, A09216, doi:10.1029/2005JA011542.
- Fujimoto, K. and Machida, S., 2006. Full particle simulation of the plasma sheet using adaptive mesh refinement technique. *Adv. Space Res.*, 37 (7) 1348-1353.
- Fukuda Y., Y. Hiraoka and K. Doi, 2006. An experiment of precise gravity measurements on ice sheet, Antarctica. *IAG Symposia 130*, C. Tregoning and C. Rizos (eds), Springer, 88-93.
- Hasebe, F., M. Fujiwara, N. Nishi, M. Shiotani, H. Vomel, S. Oltmans, H. Takashima, S. Saraspriya, N. Komala, and Y. Inai, 2007: In situ observations of dehydrated air parcels advected horizontally in the Tropical Tropopause Layer of the western Pacific. *Atmos. Chem. Phys.*, 7, 803-813.
- Hasegawa, J., K. Ishioka and S. Yoden, 2006. Asymmetrization of jet profiles in β -plane turbulence. *Proceedings of the IUTAM Symposium on Elementary Vortices and Coherent Structures:Significance in Turbulence Dynamics (Fluid Mechanics and Its Applications Vol.79)*, S. Kida Ed., Springer, 207-211.
- Kurogi, M., and K. Akitomo, 2006. Effects of stratification on the stable paths of the Kuroshio and on their variation. *Deep-Sea Research I*, 53, 1564-1577.
- Machida, S., 2006. A theoretical model of bursty bulk flows. *J. Geophys. Res.*, 111, A06210, doi:10.1029/2005JA011375.
- Makinen J., M. Amalvict, K. Shibuya and Y. Fukuda, 2007. Absolute gravimetry in Antarctica: Status and prospects. *J. Geodynamics*, 43, 339-357.
- Masuda,S., T. Awaji, N. Sugiura, T.Toyoda, Y.Ishikawa, K.Horiuchi: Interannual variability of temperature inversions in the subarctic North Pacific, *Geophys. Res. Lett.*, 33, L24610, doi:10.1029/2006GL027865, 2006.
- Matsumoto, K., T. Sato, H. Fujimoto, Y. Tamura, M. Nishino, R. Hino, T. Higashi and T. Kanazawa, 2006. Ocean bottom pressure observation off Sanriku and comparison with ocean tide models, Altimetry, and barotropic signals from ocean models. *Geophysical Research Letters*, 33,

L16602(1-5).

- Mitsui, M. and K. Hirahara, 2006. Slow slip events controlled by the slab dip and its lateral change along a trench, *Earth and Planetary Science Letters*, 245, 344-358.
- Miyakawa, T., and T. Satomura, 2006: Seasonal variation and environmental properties of southward propagating mesoscale convective systems over the Bay of Bengal. *SOLA*, 2, 88-91.
- Miyashita, Y. Y., Kamide, Y., Miyoshi, Y., Machida, S., Liou, K., Mukai, T., Saito, Y., Meng, C.-I. and Parks, G. K., 2006. Magnetotail variations associated with substorm expansion onsets for storm time and nonstorm time. *Geophys. Res. Lett.*, 33, L24101, doi:10.1029/2006 GL028142.
- Mochizuki, T., T. Miyama, and T. Awaji: A simple diagnostic calculation of marine stratocumulus cloud cover for use in general circulation models, *J. Geophys. Res.*, 112, D06113, doi:10.1029/2006JD007223, 2007.
- Mochizuki, T., H. Igarashi, N. Sugiura, N. Ishida, T. Awaji: Improved coupled GCM climatologies for summer monsoon onset studies over Southeast Asia, *Geophys. Res. Lett.*, 34, L01706, doi:10.1029/2006GL027861, 2007.
- Nakamura T., T. Toyoda, Y. Ishikawa, and T. Awaji: Effects of tidal mixing at the Kuril Straits on the North Pacific ventilation: Adjustment of intermediate layer revealed from numerical experiments, *J. Geophys. Res.*, 111, C04003, doi:10.1029/2005JC003142, 2006.
- Nakamura T., T. Toyoda, Y. Ishikawa, and T. Awaji: Enhanced ventilation in the Okhotsk Sea through tidal mixing at the Kuril Straits, *Deep Sea Res.*, 53, 425-448, 2006.
- Nagano, A., Ichikawa, H., Miura, T., Ichikawa, K., Konda, M., Yoshikawa, Y., Obama, K., Murakami, K., 2007, Current system east of the Ryukyu Islands. *J. Geophys. Res.*, 112, C06009, doi:10.1029/2006JC003917.
- Nagata, D., Machida, S., Ohtani, S., Mende, S. B. , Saito, Y. and Mukai, T., 2006. Remote sensing of a near-Earth neutral line during the 5 October 2000 substorm. *Ann. Geophysicae*, 24 (12) 3497-3505.
- Nagura, M. and Konda, M., 2007, The seasonal development of the SST anomaly in the Indian Ocean and its relationship with ENSO. *J. Climate.*, vol. 20(1), 38 - 52.
- Naito, Y. and S. Yoden, 2006. Behavior of planetary waves before and after stratospheric sudden warming events in several phases of the equatorial QBO. *J. Atmos. Sci.*, 63, 1637-1649.
- Niino, H., A. Mori, T. Satomura, and S. Akiba, 2006: Flow regimes of nonlinear heat island circulation. *J. Atmos. Sci.*, 63, 1538-1547.
- Nishi, N., M. K. Yamamoto, T. Shimomai, A. Hamada, and S. Fukao, 2007: Fine structure of vertical motion in the stratiform precipitation region observed by a VHF Doppler radar installed in Sumatra, Indonesia. *J. Applied Meteor. Climatology*, 46, 522-537.
- Nishi, N., J. Suzuki, A. Hamada, and M. Shiotani, 2007: Rapid transitions in zonal wind around the tropical tropopause and their relation to the amplified equatorial Kelvin waves. *SOLA*, 3, 13-16.

- Sakamoto K., and K. Akitomo, 2006. Instabilities of the tidally induced bottom boundary layer in the rotating frame and their mixing effect. *Dynamics of Atmospheres and Oceans*, 41, 191-211.
- Sato, T., J. Okuno, J. Hinderer, D. S. MacMillan, H.P. Plag, O. Francis, R. Falk and Y. Fukuda, 2006. A geophysical interpretation of the secular displacement and gravity rates observed at Ny-Alesund, Svalbard in the Arctic: effects of post-glacial rebound and present-day ice melting. *Geophys. J. Int.*, 165, doi: 10.1111/j.1365-246X.2006.02992.x, 729-743.
- Shang-Ping Xie, T. Miyama, Y. Wang, H. Xu, S. P. de Szoeko, R. J. Small, K.J. Richards, T. Mochizuki, and T. Awaji: A Regional Ocean-Atmosphere Model for Eastern Pacific Climate: Towards Reducing Tropical Biases, *Journal of Climate*, 20, 1504-1522, 2007.
- Takemoto, S., Y. Fukuda, T. Higash, I. Kimura, Y. Hiraoka, H.-P. Sun, Y. Wang, H. Xu, J. J. F. Huang, P. Manurung, M. Y. B. A. Bakar, S. H. Tahir and K. Wattananikorn, 2006. Geodetic Monitoring of Gravity Changes in East- and Southeast- Asia using Absolute Gravimeters. *Proceedings of the 2nd Southeast Asian Natural Resources and Environmental Management Conference*, November 21-23, 2006, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 322-327.
- Takiguchi, H. and Y. Fukuda, 2006. Reduction of Influences of the Earth's Surface Fluid Loads on GPS Site Coordinate Time Series. *J. Geod. Soc. Japan*, 52, 141-154.
- Thalongsengchanh, P., T.W. Hadi, M. Niwano, S. Otsuka and S. Yoden, 2006. An experimental numerical weather prediction in Indochina region with a meso-scale model. *Annals of Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ.*, 49-B, 459-465.
- Tokunari, M., H. Hayakawa, K. Yamamoto, T. Uchiyama, S. Miyoki, M. Ohashi, K. Kuroda, 2006. Development of an automatic birefringence measuring device of mirror substrates for gravitational wave detectors. *Journal of Physics: Conference Series*, 32:432-438.
- Tonegawa, T. K. Hirahara, T. Shibutani and K. Shiomi, 2006. Upper mantle imaging beneath the Japan Islands by Hi-net tiltmeter recordings, *Earth Planets Space*, 58, 1007-1012.
- Tonegawa, T. K. Hirahara, T. Shibutani and N. Fujii, 2006. Lower slab boundary in the Japan subduction zone, *Earth and Planetary Science Letters*, 247, 101-107.
- Unnikrishnan K, Saito A, and Fukao S, 2006. Differences in daytime and nighttime ionospheric deterministic chaotic behavior: GPS total electron content analyses, *J. Geophys. Res.*, 111, A07310, doi:10.1029/2005JA011313.
- Unnikrishnan K, Saito A, and Fukao S, 2006. Differences in magnetic storm and quiet ionospheric deterministic chaotic behavior: GPS total electron content analyses, *J. Geophys. Res.*, 111, A06304, doi:10.1029/2005JA011311.
- Yamamoto, K., Y. Fukuda, 2006. Detection of regional mass variations using GRACE satellite gravity data. 平成 17 年度東京大学地震研究所共同利用研究集会:「日本版」衛星重力ミッションの実現を目指して集録, <http://ggpjapan.miz.nao.ac.jp/~matumoto/ERI0512/>.
- Yamamoto, K., Y. Fukuda, T. Nakaegawa and J. Nishijima, 2007. Landwater variation in four major river basins of the Indochina peninsula as revealed by GRACE. *Earth Planets Space*, 59,

193-200.

Yamamoto, M. K., N. Nishi, T. Horinouchi, M. Niwano, and S. Fukao, 2007: Vertical wind observation in the tropical upper troposphere by VHF wind profiler - A case study -. *Radio Sci.*, 42, RS3005, doi:10.1029/2006RS003538.

Yokoi, S., and T. Satomura, 2006: Mechanisms of the northward movement of submonthly-scale vortices over the Bay of Bengal during the boreal summer. *Mon. Wea. Rev.*, 134, 2251-2265.

佐藤比呂志・池田安隆・今泉俊文・三ヶ田 均・戸田 茂・堤 浩之・越谷 信・野田 賢・伊藤谷生・宮内崇裕・八木浩司・東郷正美・岩崎貴哉・坂 守・平田 直・松多信尚・河村知徳・石丸恒存・井川 猛・千屋 96 反射法地震探査グループ, 2006, 千屋断層(花岡)を横断する浅層反射法地震探査: データ取得と処理について, 地震研究所彙報, 81, 97-106.

新谷昌人・森井互・高森昭光・早河秀章・竹本修三・内山隆・大橋正健・孫文科・山中佳子, 2006. レーザー伸縮計で捉えた歪みステップ. 月刊地球, 号外, No.56.

小西康夫・福田洋一・野木義史, 2006. 南極観測船「しらせ」で得られた船上重力データの整備. 南極資料, 50, 251-262.

竹本修三・福田洋一・東 敏博・木村 勲・平岡喜文・檜山洋平・中川弘之・本田昌樹・田中俊行・青木治三・橋爪道郎・雨宮秀雄・鈴木平三・H. P. Sun・ Y. Wang・ H. Xu・ Y. Zhu・ W. Zhang・ J.J.F. Huang・ T.K. Yeh・ H.C. Yu・ C. Hwang・ S. Dwipa・ D.S. Kusuma・ P. Manurung・ T.C.Hua・ M.Y.B.A. Bakar・ S. H. Tahir・ K. Wattanakorn・ R. M. Agaton・ E. Macaspac, 2006. 東アジア・東南アジアにおける絶対重力基準網の確立. 測地学会誌, 52, 51-95.

堤 浩之・後藤秀昭, 2006, 四国の中央構造線断層帯の最新活動に伴う横ずれ変位量分布, 地震 2, 59, 117-132.

早河秀章・竹本修三・由井智志・新谷昌人・高森昭光・森井互・大橋正健, 2006. 神岡レーザー伸縮計のフリンジーひずみ変換方式の改良. 測地学会誌, 52, 183-193.

平岡喜文・木村 勲・檜山洋平・本田昌樹・雨宮秀雄・鈴木平三・竹本修三・福田洋一・東 敏博, 2006. 東アジア絶対重力基準網確立に関する共同研究(II). 国土地理院時報, 110, 19-25.

向井厚志・竹本修三・李 民・陳 致言・高 銘健・井川 猛・黒田 徹・阿部泰介・東 敏博, 2006. 台湾・竹崎観測室で観測された非等方性潮汐歪. 測地学会誌, 52, 103-113.

横井覚・里村雄彦, 2006: インドシナ半島における降水季節内変動の研究, 京都大学防災研究所年報, 49B, 441-450.

余田成男・斉藤和雄・里村雄彦・瀬古弘・坪木和久・堀之内武, 2006: 熱帯気象・気候予測のための領域モデルに関する国際ワークショップ報告. 天気, 53, 629-633.

◇著書

淡路敏之, 2006. 藤田大介・高橋正征(編), 海洋深層水利用学・基礎から応用・実践まで-, 成山堂書店, p.4-14.

◇研究機関レポート

Hirahara, K., 2006. Simulation of Earthquake Generation Process in a Complex System of Faults, Annual Report of the Earth Simulator Center, April 2004- March 2005, 121-126.

The GODAE Coastal and Shelf seas Working Group (De Mey, P., P. Craig, J. Kindle, Y. Ishikawa, R. Proctor, K. Thompson, J. Zhu and contributors). 2007, Towards the assessment and demonstration of the value of GODAE results for coastal and shelf seas models and forecasting systems. GODAE CSS working group white paper, 2006.

◇研究費等の成果報告書

石岡圭一・大塚成徳, 2007. 熱帯対流圏中層における水平層状構造に関する数値実験. 平成 18 年度京都大学電波科学計算機実験共同利用研究成果報告書, 53-54.

久家慶子, 2007. 地域分散型解析による地震の系統的震源情報取得のための研究. 平成 16-17 年度科学研究費補助金基盤研究 C 成果報告書, 140p.

堤 浩之 (研究代表者), 2006, フィリピン断層系を例とした横ずれ断層系のセグメンテーションに関する研究, 平成 15 年度~17 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書, 73p.

根田昌典、江淵直人、新井康平(2006):平成 18 年度京都大学一宇宙航空研究開発 機構共同研究「AMSR 及び AMSR-E の輝度温度データと相対風向との関係に関する研究 (その 2)」20p

◇一般書・啓蒙書・読み物等

町田 忍, 2006. 天空を彩るオーロラーその発生の仕組みー, 科学教育研究協議会・星の環会編集・理科教室, 623, 70-73.

◇学会・会議・シンポジウムの発表

Awaji, T. (招待講演), Four-dimensional variational coupled data assimilation experiment. IEEE GEOSS workshop-GEOSS science: Concepts to Impact, 2007.3.8-9, Canberra, Australia.

Awaji, T. and Y. Ishikawa (招待講演), Four-dimensional variational coupled data assimilation by K-7, CLIVAR/GODAE Meeting on A Pilot Evaluation Effort of Global Ocean syntheses, 2006.8.31-9.1, Reading, U. K.

Awaji, T., M. Kamachi, and J-GODAE Team, Demonstration & future perspective of Japan GODAE, 2006.5.16-17 OOPC-11 meeting, 東京.

Choosakul N, 齊藤 昭則, 家森 俊彦, 橋爪 道郎, GPS observation of periodic TEC variations following the 26 December 2004 Sumatra-Andaman earthquake, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原市

Doi, K., K. Shibuya, Y. Aoyama, H. Ikeda, and Y. Fukuda, 2007. Influence of sea level changes on gravity observed by a superconducting gravimeter at Syowa Station, Antarctica. The first Asia workshop on SG, Hsinchu, Taiwan, March 12-15, P2.

Fukuda Y., 2006. Monitoring groundwater variations in Bangkok using modern geodetic techniques. Symposium on Scientific Applications of GPS in Active Geosphere Investigations, Chulalongkorn University, Thailand,

Oct. 13-14.

- Fukuda, Y., K. Yamamoto, T. Nakaegawa and J. Nishijima, 2006. Detection of regional land water mass variations in Indochina using GRACE satellite gravity data. International Symposium on Groundwater Resources Assessment under the Pressures of Humanity and Climate Changes, Kyoto, Japan, April 4-6.
- Fukuda Y., K. Yamamoto, T. Nakaegawa and J. Nishijima, 2006. Monitoring of the groundwater variation in urban area, by combining GRACE data and in-situ gravity measurements. Abstracts of VI Hotine-Marussi Symposium 29 May-2 June 2006, Wuhan University, P.R. China.
- Fukuda, Y., T. Higashi, K. Yamamoto and S. Takemoto, 2007. A strategy for detecting temporal gravity variation using AG, SG and Space gravimetry. The first Asia workshop on SG, Hsinchu, Taiwan, March 12-15, P32.
- Hasegawa, T., Y. Fukuda and K. Yamamoto, 2006. Gravity Changes Associated with the 2004 Sumatra-Andaman Earthquake Detected by GRACE. 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto, Japan, December 2-5.
- Hayakawa, H., S. Takemoto, S. Yoshii, A. Araya, W. Morii and M. Ohashi, 2006. Observation of the Earth free oscillations excited by the 2004 Sumatra-Andaman earthquake with the Kamioka laser strainmeters. 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto Japan, December 2-5.
- Hirahara, K., 2006. Quasi-static simulation of earthquake cycle along the Nankai trough, southwest Japan using the Earth Simulator: Implication for occurrence of giant earthquakes, Assian Seismological Commission VI General Assembly, Bangkok, Nov. (Invited Talk).
- Hirahara, K., 2006. Toward Receiver Function Tomography, *American Geophysical Union*, Fall Annual Meeting, San Francisco, S54B-07, Dec. 15.
- Hirahara, K., T. Tonegawa and T. Shibutani, 2006. High-resolution receiver function imaging of velocity discontinuities in the crust and the upper mantle beneath the Japan Islands, The 8th SEGJ International Symposium, Kyoto, Nov.26, (Invited Talk).
- Ikeda, H., Y. Fukuda, Y. Tamura and T. Sato, 2007. Installation of Superconducting Gravimeter TT-70 (#016) at the Kamioka site. The first Asia workshop on SG, Hsinchu, Taiwan, March 12-15, P15.
- Ishikawa, Y., T. Awaji, T. In, T. Nakayama, and S. Shima, (招待講演) Forecasting of oceanic meso-scale variability in Northwestern Pacific using high-resolution 4D-VAR assimilation system. CREAMS/PICES International Workshop on Model/Data Inter-comparison for the Japan/East Sea. Aug. 21-22, 2006. Busan, Korea.
- Ishikawa, Y., T. Awaji, (招待講演) Application of adjoint sensitivity analysis with a high-resolution model in the Western North Pacific. GODAE symposium on ocean data assimilation and prediction in Asia-Oceania. Oct. 16-18, 2006, Beijing, China.
- Ishioka, K, 2006. A Spectral Method for Unbounded Domains and its Application to Wave Equations. IUTAM Symposium on Computational Physics and New Perspectives in Turbulence, Nagoya.
- Ishioka, K, 2006. A Spectral Method for Unbounded Domains and its Application to Wave Equations. The 4th KAGI21 International Symposium, K2b-02, Kyoto.
- Konda, M.: Correction of the Relative Wind Direction Effect on the AMSR Wind Speed and Its

- Impact on Estimating the Turbulent Heat Flux. ADEOS/AMSR Workshop 平成 19 年 1 月 30-31 日、つくば、JAXA つくば宇宙センター
- Konda, M., Nagura, M., Kobayashi H., 2006: The seasonal development of the SST anomaly in the eastern tropical Indian Ocean. The 4th KAGI21 international symposium “Interdisciplinary Studies of the Active Geosphere”, December 4-5, 2006, Kyoto.
- Konda, M., Shibata, A., 2006: Correction of the effect of relative wind direction on wind speed derived by Advanced Microwave Scanning Radiometer. PORSEC2006 Proceedings CDROM FA1-2, November 2-4, 2006, Busan, Korea.
- Koesuma, S., Y. Fukuda and P. Manurung, 2006. Geodynamic Analysis of Sumatra from Satellite Altimetry, Tide-Gauge and GPS Data. 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto, Japan, December 2-5.
- Kuge, K., Campos, J., Perez, A., and Ruiz, J., 2006. Source Characterization of the 13 June 2005 Tarapaca, Chile, Intermediate-depth Earthquake (Ms7.8). American Geophysical Union, Fall Meeting, S31A-0166.
- Machida, S., Miyashita, Y., Ieda, A., Nagata, D., Nagai, T., Saito, Y. and Mukai, T., 2006. Superposed epoch study of the substorm triggering in the Earth’s magnetotail, , 地球惑星科学連合 2006 年大会, E140-004, 千葉.
- Machida, S., Miyashita, Y., Ieda, A., Nagata, D., Nagai, T., Saito, Y. and Mukai, T., 2006. Multi-dimensional superposed epoch analysis of Earth’s magnetosphere and implied model of substorm, American Geophysical Union Fall Meeting, SM44B-02.
- Manahan, J. J. and Kuge, K., 2006. Deep Earthquake of 5 February 2005 under Mindanao, Philippines: Source Process and S-wave Waveform Anomaly Detected in Central Japan. American Geophysical Union, Fall Meeting, S31A-0168.
- Mitsui, Y. and K. Hirahara, 2006. 2D Simulations of Earthquake Cycles at a Subduction Zone Based on a Rate and State Friction Law -Effects of Pore Fluid Pressure Changes-, American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, San Francisco, S33B-0235, Dec. 13
- Miyakawa, T., and T. Satomura, 2006: Mesoscale cloud clusters moving southward over the Bay of Bengal. APHW, Bangkok, Thailand.
- Nagata, D, S. Machida, S. Ohtani, T. Nagai, Y. Saito, T. Mukai, 2006. Generation of field-aligned currents in the tail plasma sheet, AGU Joint Assembly, Baltimore, USA.
- Nishioka, M, A. Saito, S. Fukao, M. Yamamoto, Y. Otsuka, and T. Tsugawa, 2006,. Occurrence characteristics of plasma bubble derived from global GPS-TEC data, American Geophysical Union 2006 Fall Meeting, San Francisco, USA.
- Nishi, N., M. K. Yamamoto, T. Shimomai, A Hamada, and S. Fukao, 2007: Fine Structure of Vertical Motion in the Stratiform Precipitation Region Observed by EAR. International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere (CPEA Symposium)
- Otsuka, S. and Yoden, S., 2006. Numerical Experiments on the Layered Structures in the Mid-Troposphere over Equatorial Pacific. The 4th KAGI21 International Symposium, J1a-05, Kyoto.
- Otsuka, S. and Yoden, S., 2007. Numerical Experiments on Time-Spatial Dependence of the

- Layered Structures in the Tropical Mid-Troposphere. International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere (CPEA Symposium), 3-P5, Kyoto.
- A.Pinar · 久家慶子 · 本蔵義守, 2006. Stress Tensor Inversion of Aftershock Focal Mechanisms of October 8, 2005 Kashmir earthquake (Mw=7.6). 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, T224-008, 千葉.
- A.Pinar · 本蔵義守 · 久家慶子 · 松島政貴, 2006. Source Mechanism of the November 15, 2000 Lake Van Earthquake (Mw=5.6) in Eastern Turkey and its Seismotectonic Implications. 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S117-P004, 千葉.
- Saito, A., M. Nishioka, N. Fujita, N. Murakami, Y. Otsuka, T. Tsugawa, 2007. Midlatitude Ionospheric Disturbances Detected by a Dense GPS Receiver Array in Japan, Chapman Conference on Midlatitude ionosphere disturbances, Yosemite, USA.
- Saito, A, MTI satellite working group, 2006. Small satellite plan for imaging observation of the ionosphere, mesosphere, thermosphere and plasmasphere, 36th COSPAR Scientific Assembly, Beijing, China.
- Saito, A., Y. Otsuka, T. Tsugawa, 2006. Ionospheric disturbances detected by a dense GPS network in Japan, Western Pacific Geophysics Meeting, Beijing, China.
- Satomura, T., 2006: Introduction of collaborative activities with Asian countries in the field of Active Geosphere. The 8th Kyoto University International Symposium, Bangkok, Thailand.
- Satomura, T., 2006: Regional climate simulation of South and Southeast Asia. East Asian Monsoon Workshop, Chung Li, Taiwan.
- Satomura, T., and A. Kataoka, 2006: Numerical simulation of rainfall in tropical Asia. International Workshop on Regional Models for the Prediction of Tropical Weather and Climate, Bandung, Indonesia.
- Satomura, T., and M. Sugino, 2006: Numerical experiments of Typhoon USAGI, 2001, over the Indochina. APHW, Bangkok, Thailand.
- Satomura, T., and M. Sugino, 2006: Numerical simulation of precipitation caused by typhoon Usagi. Vietnam - Japan Joint Workshop on Asian Monsoon, Halong, Vietnam.
- Sato, T., Y. Tamura, Y. Fukuda, T. Higashi, W. Mori, A. Araya, H. Ikeda, Y. Imanishi, T. Uchiyama and S. Takemoto, 2007. Introduction to a new Japanese SG site 'Kamioka' -an experiment toward the new development of the SG observation by cooperative observation with the strain meter and seismogram. The first Asia workshop on SG, Hsinchu, Taiwan, March 12-15, P4.
- Takiguchi, H., T. Otsubo and Y. Fukuda, 2006. Reduction of Influences of the Earth's Surface Fluid Loads on GPS Site Coordinate Time Series and Global Satellite Laser Ranging Analysis. AGU Fall Meeting, San Francisco, Dec. 11-15.
- Tamura, Y., T. Sato, T. Higashi, and Y. Fukuda, 2007. Calibration of the Scale Factor of the Superconducting Gravimeter at Esashi Station, and the Importance of the Scale Factor Accuracy. The first Asia workshop on SG, Hsinchu, Taiwan, March 12-15, P14.
- Teramoto, M. and Nose., M., 2006. Statistical analysis of Pi2 pulsation by polar orbiting DE-1 satellite and three mid- and low- latitude ground stations, American Geophysical Union, Fall meeting., Abstract SM41B-1461.

- Tsuda, T., Y. Fukuda, A. Araya, A. Saito, H. Kunimori, T. Otsubo, and Y. Aoyama, 2006. Monitoring Earth's environments with GPS receiving system and micro accelerometer on low Earth orbiting satellites. 25th ISTS in Kanazawa Kanazawa-shi Kanko Kaikan, June 8.
- Tsutsumi, H., Daligdig, J. A., Goto, H., Tungol, N. M., Kondo, H., Nakata, T., and Okuno, M., 2006, Paleoseismology of the Philippine fault zone in central Luzon, Philippines, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, T225-P003, 千葉.
- Tsutsumi, H., Daligdig, J. A., Goto, H., Tungol, N. M., Kondo, H., Nakata, T., Okuno, M., and Sugito, N., 2006, Timing of surface-rupturing earthquakes on the Philippine fault zone in central Luzon Island, Philippines, American Geophysical Union Fall Meeting, T33A-0510.
- Tsutsumi, H., Sato, T., Okumura, K., and Taniguchi, K., 2007, Tectonic geomorphology along the Sagaing fault and surface rupture associated with the 1930 Bago earthquake, Satoru Oya Memorial Workshop on Seismotectonics in Myanmar and Earthquake Risk Management, Abstract volume, 17-20.
- Yamamoto, K., Y. Fukuda, 2006. A study of regional ice sheet mass variation in Antarctica using GRACE data. 2006 Western Pacific Geophyscis Meeting, Beijing, China, July 24-27.
- Yoden, S. and S. Otsuka, 2006. Numerical experiments on the layered structures in the mid-troposphere over the equatorial Pacific with a mesoscale model. Geophysical Fluid Dynamics and Scalar Transport in the Tropics, Singapore.
- Yoden, S., S. Otsuka, P. Thalongsengchanh, and T.W. Hadi, 2006. A trial of mesoscale ensemble forecasts with a lagged average method. AOGS 3rd Annual Meeting 2006 AS04-“Applied Mesoscale Numerical Weather Prediction in Southeast Asia”, Singapore.
- Yoden, S., Y. Naito, and K. Ito, 2007. Effects of the equatorial QBO on the global circulation and their possible link to the temperature variation around the stratopause. International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere (CPEA), Kyoto
- Yokoi, S., T. Satomura, and J. Matsumoto, 2006: Intraseasonal Variations in Precipitation over the Indochina Peninsula. Int. Joint Vietnamese-Japanese Workshop of MAHASRI, Halon, Vietnam.
- Yokoi, S., T. Satomura, and J. Matsumoto, 2006: Study on the Intraseasonal Variations of Precipitation over the Indochina Peninsula. APHW, Bangkok, Thailand.
- Yoshida, D., T. Araki, K. Hosokawa, A. S. Yukimatsu, N. Sato, R. A. Greenwald, and SuperDARN Group PIs, 2006. Simultaneous observations of geosynchronous magnetopause crossings and equatorward shift of the HF radar cusp. The 36th COSPAR Scientific Assembly, PSW1-0073-06, Beijing, China.
- Yoshii, S., S. Takemoto, H. Hayakawa, A. Araya, W. Morii, M. Ohashi, 2006. A 100m laser strainmeter system at Kamioka, Japan. 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto Japan, December 2-5.
- Zhu, X.-H., Ichikawa, H., Ichikawa, K., Konda, M., Obama, K., 2007: Long-Term Mooring Observations Upstream of the Ryukyu Current. The 14th PAMS/JECSS Workshop, May 23-26, 2007. Hiroshima.
- 青木茂・秋友和典, 2006. 南大洋亜南極フロントにおける小規模擾乱の観測, 2006 年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋.

- 青山雄一・土井浩一郎・澁谷和雄・野木義史・福田洋一・山本圭香・石川尚人, 2006. 南極域における衛星重力ミッション GRACE の検証観測-海底圧力計データとの比較-. 日本測地学会第 106 回講演会, 13, 岩手県奥州市.
- 秋友和典, 2006. 対流混合層における対称不安定と傾圧不安定, 2006 年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋.
- 石川洋一、里村雄彦: 高分解能 3 次元大気海洋結合モデルを用いた熱帯積雲活動に伴う大気海洋結合過程、第 8 回非静力モデルに関するワークショップ、2006 年 11 月 29 日-30 日 つくば市。
- 市川 洋・根田昌典・富田裕之・時長宏樹: 黒潮続流域における海面フラックス係留ブイ観測. 黒潮続流域での海面フラックスに関する研究集会. 平成 18 年 12 月 16 日, 名古屋大学
- 大園真子・平原和朗・鷲谷威・細善信・和田安男・安藤雅孝, 2006. GPS 観測に基づく跡津川断層系周辺の地殻変動のモデル化: 歪み集中帯の変形様式と断層走向の不均質性, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S119-007, 千葉.
- 大塚成徳・余田成男, 2006. 熱帯対流圏の循環と輸送混合～層状構造の数値的研究から～, ゼヒュロスの会 第 3 回シンポジウム, 京都.
- 大塚成徳・余田成男, 2006. 熱帯対流圏中層の層状構造に関する数値実験, 日本気象学会夏期特別セミナー(第 18 回夏の学校), A-4, 伊勢.
- 大塚亮・市川香・山本圭香・今西資郎, 2006. 重力観測衛星 GRACE のデータを用いた海底圧力変動の観測. 2006 年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋市.
- 大西敏樹・竹本修三・新谷昌人・森井互・早河秀章・赤松純平・大橋正健・福田洋一, 2006. 神岡 100 m レーザーひずみ計システムによる地殻ひずみ観測に及ぼす気圧影響. 地球惑星科学連合 2006 年大会, D123-009, 千葉.
- 大西敏樹・竹本修三・福田洋一・早河秀章・森井互・新谷昌人・高森昭光・大橋正健, 2006. 神岡レーザー伸縮計による地殻ひずみ観測に影響する荷重の考察. 日本測地学会第 106 回講演会, 55, 岩手県奥州市.
- 岡上雄介・久家慶子・加藤護, 2006. Comparison of the structure beneath three subduction zones from waveform modeling of ScS reverberations. 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, I222-P017, 千葉.
- 小河和雄・平原和朗, 2006. P 波および S 波レシーバ関数による紀伊半島下の地殻構造イメージング, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S118-P004, 千葉.
- 小郷原一智・里村雄彦, 2006: 火星ダストの急速な拡大と Hellas Basin の斜面との関係の考察. 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋市, 日本気象学会, A360.
- 小郷原一智・里村雄彦, 2006: 火星におけるダストの南北方向への拡大に対するヘラス盆地の効果. 日本気象学会 2006 年度春季大会, つくば市, 日本気象学会, 244.
- 金田香織・寺田直樹・町田 忍, 2006. Nonthermal Escape of Oxygen from Mars when the ionopause descends, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 金田香織・寺田直樹・町田 忍, 2006. The interaction between the solar wind and subsolar ionosphere of Venus during IMF turning, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 川元智司・伊藤武男・平原和朗, 2006. 多孔質弾性媒質における地震の余効変動に対するインバージョン

- ン解析, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, D124-P012, 千葉.
- 木村仁美・里村雄彦, 2006: モンスーン季におけるヒマラヤ南部の降水現象と擾乱に関する研究. 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋市, 日本気象学会, P364.
- 久家慶子・J. Campos・M. Thielmann・A. Perez, 2006. Source Characterization of the 13 June 2005 Tarapaca, Chile, Intermediate-depth Earthquake (Ms7.8) from regional accelerogram. 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S117-P005, 千葉.
- 黒木聖夫, 秋友和典, 2006. 混合層内で発達する傾圧不安定とそのパラメタリゼーションについて, 2006 年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋.
- 木口雅司・宮崎真・W. Kim・鼎信次郎・沖大幹・松本淳・里村雄彦, 2006: インドシナ半島におけるプレモンスーン期の陸面熱フラックス. 2006 年度水文・水資源学会研究発表会, 岡山市, 水文・水資源学会.
- 小橋史明・谷本陽一・村山利幸・岩坂直人・時長宏樹・野中正見・根田昌典, 冬季黒潮続流域で観測された大気境界層の構造と変動. 気象学会 2007 年度春季大会, A103 (東京, 平成 19 年 5 月 13 日)
- 根田昌典・市川洋・小濱和公・永野憲・渡邊朝生・安田一郎, 2006: 黒潮続流/再循環域での船舶による海上気象観測結果について. 大気海洋相互作用研究会、平成 18 年 6 月 23-25 日、山中湖村
- 根田昌典・市川洋・小濱和公・永野憲・渡邊朝生・安田一郎, 2006: 白鳳丸航海 KH0601 における冬期黒潮続流周辺海域の海面熱フラックス観測について. 「海學問」研究船共同利用成果報告会. 講演要旨集, I-148-151, up-27. 平成 18 年 9 月 9 日、日本科学未来館.
- 根田昌典・市川洋・渡邊朝生・安田一郎, 2006: 黒潮続流域における海面フラックス観測について. 東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター研究集会「西部北太平洋海域における大気海洋相互作用」. 平成 18 年 8 月 22 日、大槌
- 根田昌典・富田裕之・時長宏樹・市川洋, 黒潮続流域における係留海面フラックスブイ観測計画、2007 年度日本海洋学会春季大会シンポジウム「中緯度海洋前線域における大気海洋相互作用」平成 19 年 3 月 26 日、東京
- 根田昌典・林泰一: 最近の乱流観測について. 大気海洋相互作用研究会、平成 19 年 6 月 23 日-25 日、山中湖村
- 齊藤昭則, MTI 衛星検討グループ, 電離圏・中間圏・熱圏・プラズマ圏撮像観測衛星の計画とその宇宙天気への応用, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 齊藤昭則, 荒木 徹, Tsurutani Bruce, Verkhoglyadova Olga P., 地磁気嵐時における朝側・低緯度領域の電離圏電増大, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 齊藤昭則, 大塚雄一, 津川卓也, 日本上空を伝搬する電離圏全電子数変動の GPS 受信機網による観測, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 坂本圭, 秋友和典, 2006. 回転系において潮流が形成する海底境界層で励起される慣性波, 京都大学数理解析研究所研究集会「波動現象の数理と応用」, 京都.
- 坂本圭, 秋友和典, 2006. 回転系において潮流が形成する海底境界層の不安定, 日本流体力学会年会 2006, AM06-13-014, 福岡.
- 鷲谷威・橋本学・竹内章・大園真子・細善信・和田安男・尾上謙介・大谷文夫・道家涼介・平原和朗,

2006. 津川断層周辺における稠密 GPS 観測(1), 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S119-P002, 千葉.
- 坂本圭, 秋友和典, 2006. 潮流によって形成される海底境界層の不安定とその混合効果(III), 2006 年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋.
- 澁谷拓郎・伊藤潔・大見士朗・西村和浩・中尾節郎・山崎友也・平野憲雄・加茂正人・小河和雄・平原和朗, 2006. 紀伊半島～近畿地方北部地域におけるレシーバ関数イメージ, 日本地震学会 2006 年度秋季大会, C073, 名古屋.
- 澁谷拓郎・上野友岳・平原和朗, 2006. 時間拡張マルチテーパレシーバ関数推定法の改良, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S118-002, 千葉.
- 竹本修三・福田洋一・東 敏博・平岡喜文・木村 勲・本田昌樹・中川弘之・桧山洋平・田中俊行・青木治三, 2006. 東アジア・東南アジアにおける絶対重力基準網の確立. 地球惑星科学連合 2006 年大会, D122-P012, 千葉.
- 橘 亮匡, 齊藤昭則, 西岡未知, GPS 1 秒値データを用いた電離圏全電子数における短周期変動の解析, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 橘 亮匡, 齊藤 昭則, 西岡 未知, GPS 受信機データを用いた 4 分周期の TEC 変動と MSTID との比較, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 寺石周平・齊藤昭則・上野玄太・山本 衛, 2006. GPS 観測データを用いた電離圏電子密度トモグラフィ, 地球惑星科学連合 2006 年大会, E138-P007, 千葉.
- 寺田昌弘・里村雄彦, 2006: 非静力学モデル WRF を用いた 1994 年 9 月 6 日伊丹豪雨の再現実験. 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋市, 日本気象学会, P142.
- 寺本万里子・能勢正仁・亀井富永, 2006. 極軌道衛星 DE-1 と中低緯度地上観測所で観測された Pi2 地磁気脈動の統計解析, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 寺本万里子・能勢正仁・亀井富永, 2006. 極軌道衛星 DE-1 による内部磁気圏での Pi2 の統計解析, 地球惑星科学連合 2006 年大会, E140-P013, 千葉.
- 土井浩一郎・青山雄一・澁谷和雄・池田博・福田洋一・山本圭香, 2006. 南極域における衛星重力ミッション GRACE の検証観測-超伝導重力計データとの比較-. 日本測地学会第 106 回講演会, 12, 岩手県奥州市.
- 中田淳子・木田秀次・里村雄彦・渡辺力, 2006: 放射の日変化が地表面フラックスに及ぼす影響. 日本気象学会 2006 年度春季大会, つくば市, 日本気象学会, 350.
- 永田大祐・町田忍・大谷晋一・齋藤義文・向井利典, 近地球プラズマシート数密度の太陽風依存, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 永田大祐・町田忍・大谷晋一・長井嗣信・齋藤義文・向井利典, Generation of field-aligned currents in the tail plasma sheet, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 仲本康浩・伊藤耕介・余田成男, 2007, 「成層圏周極渦変動とその予測可能性に関する数値実験」, 防災研究所研究発表講演会, 京都
- 西岡未知・齊藤昭則・大塚雄一・津川卓也・深尾昌一郎・山本衛, 2006, インド・グアム間で出現したプラズマ・バブルの東西空間分布の解明, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.

- 西岡未知・齊藤昭則・大塚雄一・津川卓也・深尾昌一郎・山本衛、2006. 東南アジア地域における GPS 受信機網と赤道大気レーダーで観測されたプラズマ・バブルの性質, 地球惑星科学連合 2006 年大会, 千葉.
- 西 憲敬・鈴木 順子・濱田 篤・塩谷 雅人, 2007: 熱帯圏界面付近の帯状風の急変とその増幅したケルビン波との関係. 大気圏シンポジウム, 21
- 橋本学・橋爪道郎・Choosakul Nithiwatthn・竹本修三・福田洋一・藤森邦夫・瀧口博士・里村幹夫・伍 培明・大塚雄一・丸山 隆・斉藤 亨, 2006..東南アジアにおける GPS 連続観測で得られた 2004 年スマトラ・アマンダン地震の余効変動. 地球惑星科学連合 2006 年大会, S208-013, 千葉.
- 橋本 学・橋爪道郎・Choosakul Nithiwatthn・竹本修三・福田洋一・藤森邦夫・瀧口博士・里村幹夫・伍 培明・大塚雄一・丸山 隆・斉藤 亨・宮崎真一・佐藤一敏,2006. スマトラーアマンダン地震とニアス地震時の東南アジアの GPS データのキネマティック解析. 地球惑星科学連合 2006 年大会, D125-002,千葉.
- 荻野慎也・立花義裕・藤原正智・里村雄彦・松本淳・N. T. T. Thanh, 2006: 2004-2005 年冬のベトナム・ハノイにおける対流圏下層の逆転層. 日本気象学会 2006 年度春季大会, つくば市, 日本気象学会, 466.
- 濱田篤・西憲敬・里村雄彦・木田秀次・塩谷雅人・岩崎杉紀・亀井秋秀・大野裕一・黒岩博司・熊谷博・岡本創, 2006: ミリ波雲レーダーを用いた GMS-5 split-window 雲種判別テーブル (3). 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋, 日本気象学会.
- 早河秀章, 竹本修三, 新谷昌人, 森井互, 大橋正健, 2006. 神岡レーザー伸縮計で観測されたスマトラ地震後約 1 ヶ月間の地殻ひずみ変化. 地球惑星科学連合 2006 年大会,S113-P001, 千葉.
- 早河秀章・由井智志・竹本修三・福田洋一・新谷昌人・高森昭光・森井互・大橋正健, 2006. 神岡レーザー伸縮計で観測されたスマトラ地震による地殻ひずみ変動. 日本測地学会第 106 回講演会, 53, 岩手県奥州市.
- 東 敏博・福田洋一・竹本修三・大西敏樹・吉田恵理・由井智志・早河秀章・佐藤忠弘・大橋正健,2006. 神岡における絶対重力測定. 地球惑星科学連合 2006 年大会, D122-001,千葉.
- 兵藤守・堀高峰・平原和朗, 2006. A viscoelastic crustal deformation model in Tohoku region.-Effect of laterally heterogeneous viscoelastic structure in the mantle wedge portion on crustal deformation-, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, D124-P002, 千葉.
- 平原和朗, 2006. 地震波トモグラフィによる地球内部の不均質構造イメージング, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, 口頭発表, S206-002、千葉, (招待講演)
- 平原和朗・堀高峰・兵藤守・光井能麻, 2006. 南海トラフ巨大地震サイクルと西南日本内陸地震の発生, 日本地震学会 2006 年度秋季大会、A037, 名古屋.
- 福田洋一・津田敏隆・新谷昌人・國森裕生・久保岡俊宏・黒石裕樹, 2006. 超小型精密測位衛星 PPM-Sat 計画. 第 7 回宇宙科学シンポジウム, 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部.
- 福田洋一・山本圭香, 2006. 氷床の消長と重力変動—GRACE による観測. 京都大学防災研究所共同利用研究集会「異分野観測の地震学・地球ダイナミクスへのインパクト」, 宇治市.
- 福田洋一・山本圭香・上野悟志・西島潤・仲江川敏之・谷口真人, 2006. 衛星・地上精密重力測定に

- よる都市域地下水変動のモニター-概要とジャカルタでの予備調査-. 日本測地学会第 106 回講演会, 19, 岩手県奥州市.
- 福田洋一・山本圭香・仲江川敏之・西島潤, 2006. Monitoring of the groundwater variation in urban area by GRACE and gravity measurements. 地球惑星科学連合 2006 年大会, H211-004, 千葉市.
- 藤田信幸・寺石周平・齊藤昭則・上野玄太, 2006. GPS 電離圏電子密度トモグラフィによる日本上空電離圏擾乱の鉛直構造伝搬の研究. 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会, B005-P027, 相模原.
- 堀高峰・光井能麻・馬場俊孝・加藤尚之・平原和朗・金田義行, 2006. フィリピン海プレートの 3 次元形状を考慮した地震発生サイクルの数値シミュレーション, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S109-P009, 千葉.
- 堀高峰・小平秀一・馬場俊孝・平原和朗・金田義行, 2006. 南海トラフ巨大地震サイクルのシミュレーションと期待される地殻変動, 日本地震学会 2006 年度秋季大会, A030, 名古屋.
- 町田 忍・小原隆博・平原聖文・斎藤義文・斎藤昭則・下田忠宏, 2006. 円筒型電極を用いた中エネルギー粒子静電分析器の開発. 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会, B006-P021, 相模原.
- 町田 忍・長井 嗣信, 2006. 最近の衛星観測によって得られた磁気圏尾部の物理的新描像. 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会, S002-04, 相模原.
- 光井能麻・堀高峰・平原和朗, 2006. 遺伝的アルゴリズムを用いた地震発生サイクルモデルの摩擦パラメータインバージョン, 2006. 日本地震学会 2006 年度秋季大会, A029, 名古屋.
- 光井能麻・堀高峰・平原和朗, 2006. 数値シミュレーションとデータ解析が示す東海スロースリップの新たな存在意義, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, S109-004, 千葉.
- 三井雄太・平原和朗, 2006. 間隙水圧の変動を考慮した地震発生サイクルシミュレーション-沈み込み帯の 2 次元モデリング-, 日本地震学会 2006 年度秋季大会, P092, 名古屋.
- 宮川知己・里村雄彦・高藪縁, 2006: ベンガル湾上における MCS 南進時の背景場およびその果たす役割. 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋市, C211.
- 宮川知己・高藪縁・里村雄彦, 2006: ベンガル湾上の MCS が北・東・西方向へ伝播する時の背景場の特徴. 日本気象学会 2006 年度秋季大会, 名古屋市, P352.
- 向井厚志・藤森邦夫, 2006. 淡路島 800m 孔で観測された歪および傾斜変化に対する海洋荷重の影響. 地球惑星科学連合 2006 年大会, D124-014, 千葉.
- 村上 尚美, 齊藤 昭則, 津川 卓也, 衛星搭載加速度計データを用いた熱圏中性大気密度変動と電離大気密度変動の比較, 第 120 回地球電磁気・地球惑星圏学会秋講演会, 相模原.
- 山本圭香・福田洋一, 2006. GRACE 衛星重力データを用いた南極氷床変動の研究. 地球惑星科学連合 2006 年大会, W213-P007, 千葉市.
- 山本圭香・福田洋一, 2006. GRACE データを用いた南極氷床変動の研究. 日本測地学会第 106 回講演会, 14, 岩手県奥州市.
- 山本圭香・福田洋一, 2006. GRACE 衛星重力データを用いた南極氷床変動の研究. 極域気水圏・生物圏合同シンポジウム, 東京.
- 山本圭香・福田洋一, 2006. GRACE の衛星重力データを用いた南極の地域的な氷床変動の研究. 極域地学シンポジウム, 東京.

- 由井智志, 2006. 神岡のトンネルでみたスマトラ地震. 京大防災研共同利用研究集会「異分野観測の地震学・地球ダイナミクスへのインパクト」, 宇治市.
- 由井智志・竹本修三・福田洋一・東敏博・早河秀章・新谷昌人・高森昭光・森井互・大橋正健, 2006. 神岡レーザー伸縮計で観測されたスマトラ地震による地球自由振動. 日本測地学会第 106 回講演会, 54. 岩手県奥州市.
- 横井覚・里村雄彦・松本淳, 2006: インドシナ半島における降水季節内変動の研究. 京都大学防災研究所年会, 京都, 京都大学防災研究所.
- 横井覚・里村雄彦・松本淳, 2006: インドシナ半島における降水季節内変動の気候学的特徴. 日本気象学会 2006 年度春季大会, つくば市, 日本気象学会, 197

地質学鉱物学分野

◇論文

(教員)

- Aoya, M., Wallis, S. R., Kawakami, T., Lee, J., Wang, Y. and Maeda, H., 2006. The Malashan gneiss dome in south Tibet: comparative study with the Kangmar dome with special reference to kinematics of deformation and origin of associated granites. *In*: Law R. D., Searle M. P. and Godin L. eds., Channel Flow, Ductile Extrusion and Exhumation of Lower-mid Crust in Continental Collision Zones. Geological Society of London Special Publications, 268, p. 471-495.
- Arpa, M. C. B., Bornas, M. A. V., Abigania, M. I. T., Solidum, R. U., Listanco, E. L., Ozawa, A. and Tagami, T., 2006. Characterization of lava flow and pyroclasts from the February to March 2000 eruption of Mayon volcano, Philippines. *J. Geol. Soc. Philippines*, 61, 1-19.
- Kawakami, T., Ellis, D. J. and Christy, A. G., 2006. Sulfide evolution in high-temperature to ultrahigh-temperature metamorphic rocks from Lutzow-Holm Complex, East Antarctica. *Lithos*, 92, 431-446.
- Kawakami, T. and Kobayashi, T., 2006. Trace element composition and the degree of partial melting of pelitic migmatites from the Aoyama area, Ryoke metamorphic belt, SW Japan: Implications for the source region of tourmaline leucogranites. *Gondwana Research*, 9, 176-188.
- Naruse, H. and Masuda, F., 2006. Visualization of internal structure of massive division in experimental sediment-gravity-flow deposits by mapping of grain fabric. *Journal of Sedimentary Research*, 76, 854-865.
- Obata, M., T. Hirajima, T. and Svojtka, M., 2006. Origin of eclogite and garnet pyroxenite from the Moldanubian Zone of the Bohemian Massif, Czech Republic and its implication to other mafic layers embedded in orogenic peridotites. *Mineralogy and Petrology*, 88, 321-340.
- O'Hara, K., Mizoguchi, K., Shimamoto, T. and Hower, J. C., 2006. Experimental frictional heating of coal gouge at seismic slip rates: evidence for devolatilization and thermal pressurization of gouge fluids. *Tectonophysics*, 424, 109-118.
- Otsubo, M. and Yamaji, A., 2006. Improved resolution of the multiple inverse method by eliminating erroneous solutions. *Computers & Geosciences*, 32, 1221-1227.
- Rakovan, J., Kitamura, M., and Tamada, O. 2006. Sakura Ishi (cherry blossom stones): mica pseudomorphs of complex cordierite-indialite intergrowth from Kameoka, Kyoto Prefecture, Japan. *Rocks and Minerals*, 81, 284-292.
- Yamaji, A., Otsubo, M. and Sato, K., 2006. Paleostress analysis using the Hough transform for separating stresses from heterogeneous fault-slip data. *Journal of Structural Geology*, 28, 980-990.
- Yamaji, A. and Sato, K., 2006. Distances for the solutions of stress tensor inversion in relation to misfit angles that accompany the solutions. *Geophysical Journal International*, 167, 913-942.
- 並木則行・岩田隆浩・大竹真紀子・荒木朋子・杉原孝充・山口 靖・山路 敦・中村良介・荒木博志, 2006.

SELENE 計画の目指す統合サイエンス：月の科学. 日本惑星科学会誌, 15, 169-177.
成瀬 元, 2006. 沈降管天秤法粒度分析用アプリケーション“STube”の特色と利用法. 堆積学研究, 62, 55-61.

(学生)

- Fujino, S., Masuda, F., Tagomori, S. and Matsumoto, D., 2006. Structure and depositional processes of a gravelly tsunami deposit in a shallow marine setting; Lower Cretaceous Miyako Group, Japan. *Sedimentary Geology*, 187, 127-138.
- Hoshide, T., Obata, M. and Akatsuka, T., 2006. Crystal settling and crystal growth of olivine in magmatic differentiation - the Murotomisaki Gabbroic Complex, Shikoku, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 101, 223-239.
- Hoshide, T., Obata, M. and Akatsuka, T., 2006. Magmatic differentiation by means of segregation and diapiric ascent of anorthositic crystal mush - the Murotomisaki Gabbroic Complex, Shikoku, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 101, 334-339.
- Jefferies, S. P., Holdsworth, R. E., Wibberley, C. A. J., Shimamoto, T., Spiers, C. J., Niemeijer A. R. and Lloyd G. E., 2006. The nature and importance of phyllonite development in the crustal-scale fault cores: an example from the Median Tectonic Line, Japan. *J. Struct. Geol.*, 28, 220-235.
- Jefferies, S. P., Holdsworth, R. E., Shimamoto, T., Takagi, H., Lloyd, G. E. and Spiers, C. J., 2006. Origin and mechanical significance of foliated cataclastic rocks in the cores of crustal-scale faults: Examples from the Median Tectonic Line, Japan. *J. Geophys. Res.*, 111, B12303, doi:10.1029/2005JB004205.
- Kusuhashi, N., Matsumoto, A., Murakami, M., Tagami, T., Hirata, T., Iizuka, T., Handa, T. and Matsuoka, H., 2006. Zircon U-Pb ages from tuff beds of the upper Mesozoic Tetori Group in the Shokawa district, Gifu Prefecture, central Japan. *Island Arc*, 15, 378-390.
- Mizoguchi, K., Hirose, T., Shimamoto, T. and Fukuyama, E., 2006. Moisture-related weakening and strengthening of a fault activated at seismic slip rates. *Geophys. Res. Lett.*, 33, L16319, doi:10.1029/2006GL026980.
- Murakami, M., Kosler, J., Takagi, H. and Tagami, T., 2006. Dating pseudotachylyte of the Asume Shear Zone using zircon fission-track and U-Pb methods. *Tectonophysics*, 424, 99-107.
- Murakami, M., Yamada, R. and Tagami, T., 2006. Short-term annealing characteristics of spontaneous fission tracks in zircon: A qualitative description. *Chem. Geol.*, 227, 214-222.
- Nishimura, T., Maeda, H., and Shigeta, Y., 2006. Ontogenetic shell development of a Cretaceous desmoceratine ammonoid "*Tragodesmoceras subcostatus*" Matsumoto, 1942 from Hokkaido. *Paleontological Research*, 10, 11-28.
- Nunami, S., Nakagawa, R. and Ota, Y., 2006. Taphonomic study on tooth fossils of vertebrates from

- “Branch 2” in Ojika-do Cave on the Hirao-dai Karst Plateau, Fukuoka Prefecture, Japan. *Journal of the Speleological Society of Japan*, 31, 36-41.
- Otsubo, M., Sato, K. and Yamaji, A., 2006. Computerized identification of stress tensors determined from heterogeneous fault-slip data by combining the multiple inverse method and k-means clustering. *Journal of Structural Geology*, 28, 991-997.
- Ozawa, A., Tagami, T. and Kamata, H., 2006. Argon isotopic composition of some Hawaiian historical lavas. *Chem. Geol.*, 226, 66-72.
- Sano, H., Sherrod, D.R. and Tagami, T., 2006. Youngest volcanism about 1 million years ago at Kahoolawe Island, Hawaii. *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, 152, 91-96.
- Sato, T., Masuda, F. and Nishio, T., 2006. Estimation of the depositional time by comparison of foreset-lamina cross-stratification angles and ocean current fluctuations: the Pleistocene Ichijiku Formation, Kazusa Group. *Marine Geology*, 235, 241-245.
- Sato, K. and Yamaji, A., 2006. Embedding stress difference in parameter space for stress tensor inversion. *Journal of Structural Geology*, 28, 957-971.
- Sato, K. and Yamaji, A., 2006. Uniform distribution of points on a hypersphere for improving the resolution of stress tensor inversion. *Journal of Structural Geology*, 28, 972-979.
- Seto, Y., Ohi, S., Shimobayashi, N., Kitamura, M., Miyake, A., Hiroi, Y., and Grantham, G.H., 2006. Clinopyroxene exsolution in wollastonite from Namaqualand granulite, South Africa. *American Mineralogist*, 91, 446-450.
- Tanaka, G., 2006. Functional morphology and light-gathering ability of podocopid ostracod eyes and the palaeontological implications, *Zoological Journal of the Linnean Society*, 147, 97-108.
- Tanaka, G., 2006. *Sanyuania cuneata* Zhao & Whatley, 1992 (Ostracoda, Cytheroidea, Cytherideidae) from Japan: morphology, distribution and environmental significance, *Journal of Micropalaeontology*, 25, 187-188.
- Yamada, K., Tagami, T. and Kamata, H., 2006. K-Ar geochronology of rhyolitic rocks in the Hohi volcanic zone, central Kyushu, Japan. *J. Asian Earth Sci.*, 27, 430-436.
- Yamada, R., Murakami, M. and Tagami, T., 2006. Statistical modeling of annealing kinetics of fission tracks in zircon: Reassessment of laboratory experiments. *Chem. Geol.*, 236, 75-91.
- 中川良平・沼波信・浦田健作・吉村和久, 2006. 福岡県平尾台潮見穴産中型哺乳類遺存体のフッ素含量および磨耗状態による集積過程の推定(予報). *洞窟学雑誌*, 31, 49-53.
- 平澤聡・中川良平・沼波信, 2006. 沖縄県宮古島仲原鍾乳洞(アブチャー)から産出したキクガシラコウモリ属標本について(予報). *洞窟学雑誌*, 31, 42-48.
- 松本啓作・平島崇男, 2006. 走査型電子顕微鏡を用いたモード測定, *岩石鉱物科学*, 35, 97-108.

◇会議・シンポジウム・研究会等の報告書・論文

「教員」

- Boutareaud, S., Fabbri, O., Han, R., Buatier, M. and Shimamoto, T., 2006. Shear localization at

- seismic slip rates: first results from high-velocity experiments on the gouge of the Usukidani fault, southwest Japan. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-01251, Vienna, Austria.
- Del Gaudio, P., Han, R., Di Toro, G., Hirose, T., Shimamoto, T. and Cocco, M., 2006. Dynamic strength of peridotite at seismic slip rates: experimental results. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33A-0219, San Francisco.
- Del Gaudio, P., Han, R., Di Toro, G., Hirose, T., Cocco M. and Shimamoto, T., 2006. Dynamic strength of peridotite during frictional melting at seismic slip rates: experimental results. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-02854, Vienna, Austria.
- Di Toro, G., Hirose, T., Nielsen, S., Pennacchioni, G. and Shimamoto, T., 2006. Lubrication of faults by seismic melts during earthquakes. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-01937, Vienna, Austria.
- Hirajima, T., Nakamura, D., Naemura, K., Sai, H. and Svojtka, M., 2006. Missing link between ultra-high pressure (UHP) and ultra-high temperature metamorphism (UHT); A case study in the Bohemian massif. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.205, Kobe (Japan), July 23-28.
- Hirajima, T., Hiroi, Y., Svojtka, M. and Kanagawa, K., 2006. Andalusite Formation after Kyanite and Sillimanite in Sheared HP Gföhl Granulites of Southern Bohemian Massif, Czech Republic: Typical Example of Strain-assisted Polymorphic Reactions? 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.177, Kobe (Japan), July 23-28.
- Hoshide, T., Obata, M., and Akatsuka, T., 2006. Magmatic differentiation processes in the Murotomisaki gabbroic complex – segregation of plagioclase-rich crystal mush from the crystallization boundary layer. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.175, Kobe (Japan), July 23-28.
- Hoshide, T., Obata, M., and Akatsuka, T., 2006. Magmatic differentiation processes in the Murotomisaki Gabbroic Complex, Shikoku, Japan – segregation and floatation of plagioclase crystal mush from the boundary layer, The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto (Japan), p.78, December 2-5.
- Ikuta, D., Kawame, N., Banno, S., Hirajima, T., Ito, K., Rakovan, J.F., Downs, R.T. and Tamada, O., 2006. First in situ X-ray identification of coesite and retrogressed quartz on a glass thin section of ultrahigh-pressure metamorphic rock and their crystal structure details. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.151, Kobe (Japan), July 23-28.
- Kawakami, T., Ellis, D. J. and Christy, A. G., 2006. Sulfide evolution in high-temperature to ultrahigh-temperature metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica. The 4th KAGI21 International Symposium Kyoto, Program & Abstracts, p.81, Kyoto (Japan), December 2-5.
- Kawakami, T., Ellis, D. J. & Christy, A. G., 2006. Sulfide evolution in high-temperature to

- ultrahigh-temperature metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.210, Kobe (Japan), July 23-28.
- Kawakami, T., Ellis, D. J. & Christy, A. G., 2006. Sulfide evolution in high-temperature to ultrahigh-temperature metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica. International Symposium on Material Science and History of Earth and Sister Planets. Open Research Center of Okayama University of Science. March 29-31.
- Kitagawa, R., Suemine, K., Jige, M., Hirono, T. and Shimamoto, T., 2006. Clay mineralogical characteristics of decollement zone at the Nankai Trough (ODP; Leg190-site1174). 19th General Meeting of International Mineralogical Association, Kobe.
- Kitajima, H., Chester, J. S., Chester, F. M. and Shimamoto, T., 2006. Dynamic weakening at seismic slip rates demonstrated for fault-rocks from SAFOD Core and Punchbowl fault. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S41D-04, San Francisco.
- Kitajima, H., Chester, J. S., Shimamoto, T. and Chester, F. M., 2006. Frictional strength at seismic slip rates: A comparison between fault rocks taken at SAFOD and the Punchbowl Fault ultracataclasite. 2006 SCEC (Southern California Earthquake Center) Annual Meeting, Palm Spring, California.
- Meneghini, F., Di Toro, G., Rowe, C.D., Moore, J., Tsutsumi, A., and Yamaguchi, A., 2006. Fault rocks from seismogenic depths in exhumed subduction prisms: Pasagshak Point, Kodiak Island, AK, American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, T21A-0374, San Francisco.
- Matsuoka, H., Watanabe, Y., Ueda, J., Tagami, T., Takemura, K., Brahmantyo, B., Maryunak.A., NI, Ohsawa, S., Yamada, M., Kitaoka,K., Yoden, S., 2006. Cave survey trips to the limestone caves of Java, Indonesia: 1,Buniayu, West Java and 2,Karangbolong, Central Java. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto.
- Miyake, A. and Kawano,J., 2006. Molecular dynamics simulations of MgSiO₃ enstatite and seismic discontinuity in the upper mantle. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe, Program & Abstracts, 123.
- Mizoguchi, K., Hirose, T., Shimamoto, T. and Fukuyama, E., 2006. Moisture-related weakening and strengthening of faults for quartz-poor gabbro and quartz-rich granite. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33B-0243, San Francisco.
- Moore, J., Rowe, C.D., Meneghini, F., Yamaguchi, A., and Tsutsumi, A., 2006. Evolution of seismogenic subduction thrusts, American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, T13G-01, San Francisco.
- Naruse, H., Saito, Y. and Masuda, F., 2006. Flow transformation of the subaerial debris-flow into multiple turbidity currents. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan, Abstract O-215.
- Naruse, H., Saitoh, Y., Masuda, F., 2006. Flow Transformation of Debris-Flows Flowing from Subaerial to Subaqueous Environments. AAPG Annual Convention, Houston, USA, Abstract

P-56.

- Nielsen, S., DiToro, G., Hirose T. and Shimamoto, T., 2006. The physics of melt lubrication on seismic faults: multiple coupling and feedback. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-06347, Vienna, Austria.
- Nielsen, S., Di Toro, G., Hirose, T. and Shimamoto, T., 2006. Constitutive law for melt lubrication on earthquake faults. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33B-0238, San Francisco.
- Nishimura, T., Maeda, H. and Shigeta, Y., 2006. Peramorphic evolution in a Cretaceous desmoceratine ammonoid: "*Tragodesmocerooides subcostatus*" Matsumoto, 1942 from Hokkaido, Japan. The 2nd International Palaeontological Congress, Beijing, China, 114.
- Nishio, T., Nakamura, Y., Yamamura, R., Iwata, H., Yokokawa, M., Naruse, H., Tsuchiyama, A., Uesugi, K., Nakano, T., Endo, N. and Yamaji, A., 2006. Are the changes in sediment concentration recorded by the three-dimensional grain fabric in plane-bed deposits?: Analysis using the X-ray microtomography. 17th International Sedimentological Congress, Abstract TS3-1-P-049, Fukuoka International Congress Center.
- Obata, M. and Takazawa, E., 2006. High-pressure mafic layers of gabbroic origin embedded in mantle-derived orogenic peridotite: the Horoman peridotite and other examples. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.227, Kobe (Japan), July 23-28.
- O'Hara, K., Mizoguchi, K., Shimamoto, T. and Hower, J., 2006. Experimental frictional heating of coal gouge at seismic slip rates: evidence for devolatilization and thermal pressurization of gouge fluids. Annual Meeting of Geological Society of America, Philadelphia, Pennsylvania.
- Shimobayashi, N., Miyake, a., Seto, Y., Ohtaki, S., and Kitamura, M., 2006. Iridescent andradite garnets (Rainbow Garnets), newly-found from the Tenkawa area in the Yoshino district, Nara Prefecture, Japan. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe, Program & Abstracts, 309.
- Ree, J.-H., Han, R., Shimamoto, T. and Kim, J.-W., 2006. Microstructural and mechanical evolutions of pelitic fault zones at seismic slip rates in high-velocity friction experiments. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33B-0226, San Francisco.
- Rowe, C.D., Moore, J., Meneghini, F., Yamaguchi, A. and Tsutsumi, A., 2006. Structural context of the massive ultrafine fault rocks (possible pseudotachylytes) at Kodiak Island, Alaska, USA, American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, T13G-02, San Francisco.
- Shimamoto, T., 2006. Key scientific issues in fault-zone mechanics from a laboratory perspective. Fault-zone IODP-ICDP Joint Workshop, Miyazaki.
- Shimamoto, T., 2006. Intermediate to high-velocity friction of faults and its implications for earthquake nucleation processes. Mini-symposium "Modeling and Simulation of Earthquake Phenomena". Seventh World Congress on Computational Mechanics, Los Angeles, California.
- Shimamoto, T., 2006. Characterization of pulverized rocks: research plans for pulverized rocks

- along Arima-Takatsuki tectonic line. 2006 SCEC Workshop on Pulverized Rock, Palm Spring, California. (invited)
- Shimamoto, T., 2006. Role of water in dynamic rupture propagation of earthquakes: laboratory perspectives. The Fourth Water Dynamics Symposium, Tohoku University, Sendai. (invited)
- Shimamoto, T., 2006. Intermediate to high-velocity friction of faults and earthquake-nucleation processes. The 6th Joint Meeting of the UJNR Panel on Earthquake Research, Tokushima.
- Shimamoto, T., 2006. Fault mechanics and earthquake mechanisms: Taiwan, Chelungpu to Subduction Zones. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto.
- Shimamoto, T. and Hirose, T., 2006. Reproducing low to high-velocity fault motion in fluid-rich environments: An experimental challenge and preliminary results. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-09077, Vienna, Austria.
- Shimamoto, T., Tanikawa, W., Aizawa, Y., Komizo, M., Kitajima, H. and Lehner, F., 2006. Basin evolution, abnormal pore-pressure development and the maximum seal capacity of porous sedimentary rocks. European Geosciences Union, General Assembly, EGU06-A-09126, Vienna, Austria. (invited)
- Shimobayashi, N., 2006. Sr-bearing Al-silicate minerals associated with jadeite from the Wakasa district, Tottori Prefecture, SW Japan. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto, Program & Abstracts, 89.
- Shin-ichi Nomura and Haruyoshi Maeda, 2006. Habitat-reconstruction of autochthonous fossil barnacles in the Miocene Natori Group of the Moniwa-Goishi area. The second International Paleontological Congress, p.211, Beijing, China
- Tagami, T., Murakami, M., Nagahara, K., 2006. Probing fault zone heterogeneity on the Nojima fault: constraints from zircon fission-track analysis of borehole and trench samples. European Conference on Thermochronology, Bremen, Germany.
- Tagami, T., Takemura, K., 2006. An overview of the new KAGI-J3b project on the paleoclimate study using Indonesian speleothems. The 4th KAGI21 International Symposium Kyoto.
- Tsutsumi, A., 2006. Dependence of shear resistance of rocks on slip-rate during frictional melting. Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 3rd meeting, Singapore.
- Tsutsumi, A., Igwe, O. and Sassa, K., 2006. Mechanical behavior and deformation texture of fine-grained quartz sand in drained and undrained shear experiments at a large displacement. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, T21D-0453, San Francisco.
- Tsutsumi, A., Rowe, C. D., Moore, J.C., Maneghini, F. and Yamaguchi, A., 2006. Fault rock at Pasaghsak Point, Kodiak Island, Alaska: an exhumed analogue of decollement from the seismogenic zone. The 4th KAGI21 International Symposium Kyoto.
- Wallis, S., Aoya, M., Kawakami, T., Terada, K., Lee J., Wang Y., Maeda, H., 2006. The Age and Origin of the Northern Himalayan Metamorphic Domes. The 113th Annual Meeting of the Geological Society of Japan, p. 221.

- Yamada, R., Murakami, M., Tagami, T., 2006. Annealing kinetics of fission tracks in zircon; reassessment of laboratory experiments using Nisatai Dacite zircon. European Conference on Thermochronology, 2006, Bremen, Germany.
- Yamada, M., Ohsawa, S., Kitaoka, K., Watanabe, Y., Matsuoka, H., Brahmantyo, B., Maryunani, K.A., Tagami, T., Takemura, K., Yoden, S., 2006. Preliminary report on isotopic and geochemical analyses of drip water samples from Buniayu limestone caves, in Sukabumi, west Java, Indonesia. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto.
- Yamaji, A. and Sato, K., 2006. Angular stress distance as a new dissimilarity measure for stress tensors determined by the inversion of fault-slip or focal mechanism data. European Geoscience Union, Abstract EGU06-A-06821, Vienna.
- Yamaji, A. and Yokokawa, M., 2006. Three-dimensional grain fabric: clustering for recognizing dominant combinations of orientations and shapes of grains. 17th International Sedimentological Congress, Abstract TS3-1-P-048, Fukuoka International Congress Center.
- ウォリス＝サイモン・青矢睦月・河上哲生・寺田健太郎・前田 晴良, 2006. チベット南部に分布する Northern Himalayan 変成ドームの形成年代と成因, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.221, 高知.
- 小畑正明・Svojtka, M.・Christy, A. G., 2006. チェコ共和国ボヘミア地塊に産する藍晶石エクロジヤイトと高 Mg 値ざくろ石輝岩はもと沈積岩ガブロだった-全岩化学組成からのアプローチ. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), 幕張メッセ国際会議場 (千葉) .
- 小畑正明・山路 敦, 2006. 造山帯かんらん岩のマフィックレイヤーの タイプ分けと全岩化学組成のシステムティクスについて—多変量解析からのアプローチ, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.147, 高知.
- 河上哲生・外田智千, 2006. 東南極リュツォ・ホルム岩体スカレビークスハルセン産 Grt-Sil gneiss 中の Grt に見られる P の不規則なゾーニングについて. 第 26 回極域地学シンポジウム, 講演要旨, p.24-26, 国立極地研究所(東京).
- 小溝学・谷川亘・嶋本利彦, 2006. 三浦層群シルト岩の変形による浸透率・間隙率の変化. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-P006, 千葉.
- 芝崎文一郎・嶋本利彦, 2006. Modeling short-interval silent slip events considering frictional properties at the unstable-stable transition zone. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-P002, 千葉.
- 嶋本利彦・廣瀬丈洋, 2006. 中間速度領域における摩擦バリアの地震の震源核形成過程に対する重要性. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-012, 千葉. (招待)
- 田上高広・小沢絢子・佐野広記・Sherrod David R. ・Garcia Michael, 2006. ハワイアンホットスポットの時空間変動: 再生期火山活動は何を映すのか? 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, J161-003, 千葉.
- Tagami, T. and Murakami, M., 2006. Probing fault zone heterogeneity on the Nojima fault: Constraints from zircon FT analysis of borehole and trench samples. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 : AOGS 共催セッション, J162-009, 千葉. (招待)

- 谷川 亘・嶋本利彦, 2006. 堆積圧密作用と異常間隙水圧発達プロセス—台湾北西部油田地帯を例に—. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, G148-004, 千葉.
- 谷川亘・曾根大貴・野田博之・嶋本利彦, 2006. 車籠埔断層, 雙冬断層および水裏坑断層における流体移動・摩擦特性と1999集集地震時における断層すべり運動の考察. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J160-005, 千葉.
- 堤 昭人, 2006. 断層のすべり特性と断層物質. 粘土科学討論会講演要旨, 50, 22-23, 千葉. (招待)
- 平島崇男・佐井寛禎・久島寛樹・小林記之・生田大穰・玉田 攻・マルチン-スフォイッカ, 2006. Gföhl グラニュライト中の Al_2SiO_5 多形の組織の多様性, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.249, 高知.
- 廣野哲朗・徐 垣・林 為人・谷川 亘・谷水雅治・石川剛志・菊田宏之・木下正高・伊藤久男・青池 寛・橋本義孝・池原 実・三島稔明・村山雅史・大槻憲四郎・中村敦博・福地龍郎・松原拓穂・曾根大貴・嶋本利彦・藤本光一郎・増田幸治・高橋美紀・松林 修・溝口一生・多田井修・坂口真澄, 2006. 台湾チェルンプ断層掘削計画Hole B コア分析の成果速報—南海地震発生体掘削のパイロットプロジェクトとして—. 日本地震学会 2006 年秋季大会, 名古屋.
- 並木則行・岩田隆浩・大竹真紀子・荒井朋子・杉原孝充・山口 靖・山路 敦・中村良介, 2006. SELENE 計画の目指す統合サイエンス (月の科学). 日本惑星科学会, 兵庫県立美術館.
- 成瀬 元・齋藤 有, 2006. 陸上から水中環境へ流入する土石流の Flow Transformation. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, G226-P003, 千葉.
- 成瀬 元・荷福 洗, 2006. 生痕化石 *Phycosiphon incertum* の斜交配列からわかる海底斜面の古地形. 日本堆積学会 2006 年例会, 大阪, p. 18-20.
- 成瀬 元, 荷福 洗, 2006. 海底斜面堆積物中に形成された生痕化石 *Phycosiphon isp.* が示す斜交配列. 日本古生物学会第 155 回例会, 京都, p. 47.
- 溝口一生・高橋美紀・増田幸治・谷川 亘・林 為人・徐 垣・曾根大貴・嶋本利彦・Song, Sheng-Rong, 2006. TCDP Hole B コア内に発達した *Chelungpu* 断層の断層岩試料を用いた 3 軸摩擦実験: 1136mFZ の測定結果. 日本地震学会 2006 年秋季大会, 名古屋.
- 溝口一生・廣瀬丈洋・嶋本利彦, 2006. 乾燥及び室潤条件下の斑レイ岩のスライド・ホールド・スライドテスト: 断層の摩擦強度に対する湿気の影響. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-P003, 千葉.
- 三宅亮・外田智千・鳥越洋平, 2006. 東南極ナピア岩体中の石英中の *ferropseudobrookite* 離溶組織. 第 26 回南極地学シンポジウム, 国立極地研究所 (東京)
- 村岡 奨・横川 美和・成瀬 元, 2006. 堆積物の比重が小さい場合のベッドフォーム形成領域予報. 日本堆積学会例会講演要旨, p. 84.
- 望月伸竜・綱川秀夫・渋谷秀敏・田上高広・小沢絢子, 2006. K-Ar ages and palaeointensities of the Auckland geomagnetic excursions. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, E221-021, 千葉.
- 山路 敦, 2006. 応力テンソルインバージョンの地質学と地震学における共進化: 地質学の立場から. 地球惑星科学関連学会2006年合同大会, T224-001, 千葉.
- 山路 敦・佐藤活志, 2006. 応力テンソルインバージョンで得られる解の間の距離と残差. 地球惑

星科学関連学会2006年合同大会, T224-P001, 千葉.

山路 敦・渋谷岳史, 2006. 別府湾付近の鮮新世・第四紀応力場(予察的结果). 地球惑星科学関連学会2006年合同大会, T224-P002, 千葉.

山路 敦・山口 靖・小野高幸, 2006. LRS (月レーダサウンダ): どこで何がわかるか. 第8回 SELENE小研究会, 宇宙科学研究所.

「学生」

Akiyama, M., Masuda, F., Haruta, Y., Matsumoto, D. and Tamura, T., 2006. Characteristics of grain-size distribution and sedimentary structures of 2500-years BP “sandy debris-flow” fan-deposit in Kyoto. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka Japan, A, p. 281.

Fujino, S., Tagomori, S. and Matsumoto, D., 2006. Structure and depositional processes of a gravelly tsunami deposit in a shallow marine setting. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka Japan, A, p. 84.

Han, R., Shimamoto, T., Hirose, T., Ree, J.-H. and Ando, J., 2006. Physico-chemical changes and dramatic fault weakening induced by thermal decomposition in carbonate fault zones: results from friction tests at seismic slip rates. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33B-0224, San Francisco.

Kobayashi, T., Hirajima, T. and Svojtka, M., 2006. Precursor high-pressure evidence in the Grt-Bt-Sil-Crd gneiss in the Lhenice shear zone (Moldanubian Zone of the southern Bohemian Massif), Czech Republic, and its geological significance. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.211, Kobe (Japan), July 23-28.

Matsumoto, D., 2006. Tsunami-induced thick sandstone bed in shallow-marine environment. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka Japan, A, p. 331.

Matsumoto, D., Hirose, T., Shimamoto, T., Gunatilake, J., Wickramasooriya, A., Jeffrey, D., Young, S., Rathnayake, C.S., Ranasooriya, J. and Murayama, M., 2006. 2004 Indian Ocean Tsunami deposit in Lagoon Periya Kalapuwa, SE Sri Lanka. The 4th KAGI21 International Symposium Kyoto 2006, p. 108.

Nakagawa, R., Nunami, S., Yoneda, M., Uno, H. and Shibata, Y., 2006. The Late Pleistocene mammalian assemblages from the Hiraodai karst area, Kitakyushu, Japan as an indication of paleoenvironment. The 10th Anniversary Symposium of NIES-TERRA, National Institute for Environmental Studies, Tsukuba.

Nakagawa, R., Nunami, S., Yoneda, M., Uno, H. and Shibata, Y., 2006. The Holocene mammalian assemblages from Hiraodai as an indication of paleoenvironment. The 10th Anniversary Symposium of NIES-TERRA, National Institute for Environmental Studies, Tsukuba.

Nifuku, K., Kodama, K., Shigeta, Y. and Naruse, H., 2006. High resolution Maastrichtian stable carbon isotope stratigraphy in the Upper Cretaceous-Paleogene Nemuro Group, northern Japan. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka Japan, Abstract P-301.

- Nishimura, T., Maeda, H. and Shigeta, Y., 2006. Peramorphic evolution in a Cretaceous desmoceratine ammonoid; "*Tragodesmoceroides subcostatus*" Matsumoto, 1942 from Hokkaido, Japan. The 2nd International Palaeontological Congress, Beijing, China, 114.
- Ubukawa, T., Hatanaka, A., Matsumoto, K. and Hirajima, T.: Two generations of talc in the Sanbagawa metamorphic rock at the Kotsu area, eastern Shikoku, Japan. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.213, Kobe (Japan), July 23-28, 2006.
- Naemura, K., Hirajima, T. and Svojtka, M., 2006. Pressure-temperature path of spinel-garnet peridotite at the Plesovice quarry in the Blansky les granulite massif, southern Bohemia. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.207, Kobe (Japan), July 23-28.
- Ohi, S., Miyake, A., Shimobayashi, N., and Kitamura, M., 2006. Stability of high-temperature orthopyroxene in enstatite-diopside system at atmospheric pressure. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto, Program & Abstracts, 85.
- Ohi, S., Miyake, A., Shimobayashi, N., and Kitamura, M., 2006. Stability of high-temperature orthopyroxene in Mg₂Si₂O₆-CaMgSi₂O₆ system at atmospheric pressure. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe, Program & Abstracts, 106.
- Otsuka, K. and Hirajima, T., 2006. Pressure and temperature trajectory obtained by Gibbs' Method for the kyanite-quartz eclogite from the Sambagawa metamorphic belt, Japan. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.213, Kobe (Japan), July 23-28.
- Sato, T. and F. Masuda, 2006. Three dimensional analysis of the accumulation rate in the Yahagi delta central Japan. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. p.185(A).
- Sato, T. and F. Masuda, 2006. Human activity and accumulation change of the Yahagi delta, Japan. An International Conference on DELTAS (Borneo Venue): Depositional Systems and Stratigraphic Development, Brunei. p. 55.
- Shin-ichi NOMURA and Haruyoshi MAEDA, 2006. Habitat-reconstruction of autochthonous fossil barnacles in the Miocene Natori Group of the Moniwa-Goishi area. The second International Paleontological Congress, p. 211, Beijing, China
- Shin-ichi NOMURA, 2006. Modes of fossil barnacle occurrences reflecting transgression in the Miocene Natori Group of the Moniwa-Goishi area, northeast Japan, p. 327, Fukuoka
- Sone, H. and Shimamoto, T., 2006. Experimental study on the slip and velocity dependent gouge friction at seismic slip rates. American Geophysical Union, Fall Annual Meeting, S33A-0225, San Francisco.
- Takagawa Tomohiro, 2006. For extreme wave climates after a snowball Earth, implications of experimental giant ripples. Japan Geoscience Union Meeting, Abstracts L129-P003.
- Tanaka, G., 2006. The kinematics of adductor muscle and pattern formation of various shell ornamentations in marine ostracods, 2nd International Palaeontological Congress, Abstract, p.223, Beijing.

- Tanaka, G. and Maeda, H., 2006. What the fossilised eye tells us-functional analysis of an exceptionally preserved eye of an Eocene fly-, 4 th KAGI International Symposium Abstract p.112, Kyoto.
- Tanaka, G., Siveter, D.J. and Parker, A.R., 2006. Functional analysis of an exceptionally preserved eye of an Eocene fly, 50 th Annual Meeting of the Palaeontological Association Abstract, p.73, Sheffield.
- Taniguchi, A., Naruse, H., Yokokawa, M., Hayashida, A. and Masuda, F., 2006. Intercomparison of the results obtained by different methods for grain fabric investigation of sedimentary rocks. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka Japan, Abstract P-050.
- Ubukawa, T., Hatanaka, A., Matsumoto, K. and Hirajima, T.: Two generations of talc in the Sanbagawa metamorphic rock at the Kotsu area, eastern Shikoku, Japan. 19th General Meeting of the International Mineralogical Association, p.213, Kobe (Japan), July 23-28, 2006.
- Watanabe, Y., Matsuoka, H., Ohsawa, S., Yamada, M., Kitaoka, K., Kiguchi, M., Satomura, T., Ueda, J., Kurisaki, K., Yoshimura, K., Nakai, S., Brahmantyo, B., Maryunani, K.A., Tagami, T., Takemura, K., Yoden, S., 2006. An overview of the KAGI21-J3b project on the paleoclimate study using Indonesian speleothems. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto.
- Watanabe, Y., Matsuoka, H., Ohsawa, S., Yamada, M., Kitaoka, K., Kiguchi, M. Ueda, J., Yoshimura, K., Kurisaki, K., Nakai, S., Brahmantyo, B., Maryunani, K. A., Tagami, T., Takemura, K., Yoden, S., 2006. Paleoclimatological study using stalagmites from Java island, Indonesia. AGU, Fall Meeting, San Francisco.
- Watanabe, Y., Matsuoka, H., Ueda, J., Kurisaki, K., Yoshimura, K., Nakai, S., Tagami, T., Takemura, K., 2006. Preliminary report on speleothem characteristics from West and Central Java, Indonesia. The 4th KAGI21 International Symposium, Kyoto.
- Yamada, K., Tagami, T., 2006. (U-Th)/He thermochronology of the Tanzawa Tonalitic complex, Japan. AGU, Fall Meeting, San Francisco.
- Yamasaki, S., Tagami, T., Kani, T., Hanan, B.B., 2006. Isotope Compositions of Submarine North Kona Tholeiitic Lavas, Hualalai Volcano, Hawaii. AGU, Fall Meeting, San Francisco.
- 相澤泰隆・嶋本利彦, 2006. 堆積岩の異方性, 圧密と断層帯の影響による浸透率・間隙率変化—新潟堆積盆地の流体移動の解析例—. 日本地球惑星科学連合2006年大会, G150-P009, 千葉.
- 秋山美奈子・増田富士雄・春田泰宏・松本 弾・田村亨, 2006. 京都, 白川扇状地にみられる弥生時代(2500年前)の砂質土石流堆積物の粒度特性. 日本堆積学会 2006年例会, p. 100.
- 上田匡将・小畑正明・金川久一・小澤一仁・廣瀬丈洋, 2006. Balmuccia かんらん岩の断層脈型シェードタキライトの微細構造—特に FE-SEM と EBSD を用いた観察—破断・融解・再結晶化・塑性変形のサイクル. 日本地球惑星科学連合大会予稿集(CD-ROM), 幕張メッセ国際会議場 (千葉) .
- 大井修吾・三宅 亮・下林典正・北村雅夫, 2006. Mg₂Si₂O₆-CaMgSi₂O₆系高温常圧における斜方輝石の相関係. 地球惑星科学関連学会 2006年合同大会, 千葉.
- 亀井 陽・小畑正明・道林克禎, 2006. チェコ共和国ボヘミア山塊に産する Mohelno かんらん岩体にお

- けるカンラン石 CPO の変遷, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.137, 高知.
- 北川博道・瀬戸浩二・高橋啓一, 2006. 瀬戸内海西部諸島水道海底から産出したナウマンゾウ化石とその¹⁴C年代について. 日本古生物学会 2006 年総会, No.8、松江市.
- 熊谷 太朗・前田 晴良, 2006. 上部白亜系姫浦層群より産出する *Inoceramus* 属二枚貝の古生態—*Inoceramus higoensis*, *I. amakusensis* について—. 日本古生物学会例会講演予稿集, 155, p. 83.
- 小林記之・平島崇男・スフォイッカ・マルチン, 2006. 「チェコ共和国・ボヘミア地塊南部 Lhenice shear zone に産する Garnet-biotite-sillimanite-cordierite 片麻岩の岩石学的特徴, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.247, 高知.
- 齋藤文紀・七山太・田村亨・佐藤智之, 2006. 潮汐と河川卓越型のマハカムデルタ巡検報告. 日本堆積学会 2006 年例会, p. 4, 大阪.
- 坂倉範彦・成瀬元・藤野滋弘・松本弾・JARUPONGSAKUL, T.・WEDCHAKUL, W.・WEDRAKSAKUL, A., 2006. インド洋大津波によって打ち上げられた潮間帯貝類およびカシパンウニのタフォノミー; タイ王国南西部 Phangnga 県 Phra Thong 島の例. 日本古生物学会第 155 回例会講演予稿集, p. 32-32.
- 坂本 隆彦・高川 智博・増田 富士雄, 2006. D80 粒子群が支配する河床物質の組織と河床勾配. 日本堆積学会例会講演要旨, p. 65-67.
- 佐藤活志・山路 敦・大坪 誠, 2006. 応力逆解法のための解空間. 地球惑星科学関連学会2006年合同大会, T224-002, 千葉.
- 佐野広記・田上高広・Garcia Michael・Gandy Christian E.・Blay Chuck, 2006. ハワイ・カウアイ島における回春期火山活動と活動休止期に対する K-Ar 年代学. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, J161-P020, 千葉.
- 澤田遼太郎・田上高広・小沢絢子, 2006. K-Ar 年代に対する風化の影響の評価. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, G152-P004, 千葉.
- 曾根大貴・嶋本利彦, 2006. 滑り量と速度に依存するガウジの高速摩擦特性; TCDP の断層帯サンプルを用いて. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-P004, 千葉.
- 曾根大貴・嶋本利彦・野田博之・谷川亘, 2006. 台湾チェルンプ断層掘削コアの摩擦・流体移動特性に基づいた、断層の強度低下過程の解析. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J160-006, 千葉.
- 高川 智博, 2006. ハンモック状斜交層理の堆積速度依存性. 日本堆積学会例会講演要旨 p. 101.
- 高谷真樹・下林典正・三宅 亮・北村雅夫, 2006. 奈良県天川村東部川迫岩体に産する花崗斑岩の斜長石・アルカリ長石の組織. 日本地質学会第113年学術大会講演要旨集, p. 256, 高知.
- 田中源吾, 2006. ポドコーパ目介形虫類のノープリウス眼の進化古生物学的考察. 日本古生物学会 155 回例会予稿集, p.24, 京都.
- 田中源吾, 2006. パレオコーパ目介形虫類の視覚器官の光学的考察とその古環境学的意義, 日本古生物学会 155 回例会予稿集, p.25, 京都.
- 田中源吾, 2006. 例外的に保存されたアシナガバエ科双翅類の複眼化石の光学的研究, 日本古生物学会 2006 年年会予稿集, p.44, 松江.
- 田中源吾, 2006. Cytheroidea 上科 (介形虫類) における閉殻筋運動と殻表面装飾のパターン形成, 日

- 本古生物学会 2006 年年会予稿集, p.56, 松江.
- 中川良平・沼波信・平澤聡, 2006. 沖縄県石垣島における脊椎動物化石産出洞窟予備調査. 日本洞窟学会第 32 回大会, 東京.
- 西村智弘・前田晴良・重田康成, 2006. 白亜系蝦夷層群から産出するデスモセラス亜科アンモノイド; “*Damesites sugata*”について. 日本古生物学会2006年総会講演予稿集, 64.
- 野村真一, 2006. 海進にともなうフジツボ群集の変化: 仙台市南西部, 中新統名取層群の自生化石の例. 日本堆積学会 2006 年例会, P86-87, 大阪.
- 野村真一, 2006. 岡山県の古第三系前島層から産出するミョウガガイ類が卓越する蔓脚類化石群の意義. 日本地質学会第 113 年学術大会, p. 225, 高知.
- 沼波信・中川良平, 2006. 沖縄島フナクブ第 2 洞から産出した脊椎動物化石. 日本洞窟学会第 32 回大会, 東京.
- 沼波信・中川良平・太田泰弘, 2006. 平尾台牡鹿洞 Branch 2 から産出した脊椎動物歯化石に見られる顕著な磨耗状態. 日本洞窟学会第 32 回大会, 東京.
- Han, R., 嶋本利彦・Ree Jin-Han, 2006. Friction-induced Thermal Decarbonation of Siderite and Dolomite. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J160-P013, 千葉.
- Han, R., 嶋本利彦・廣瀬丈洋・Ree J-H., 安東淳一, 2006. Thermal decomposition in Carrara marble due to frictional heating: its implications on coseismic fault zone processes. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-P005, 千葉.
- 平澤聡・中川良平・沼波信, 2006. 沖縄県宮古島仲原鍾乳洞産翼手目標本の予察的記載. 日本洞窟学会第 32 回大会, 東京.
- 久島紘樹・平島崇男, 2006. チェコ共和国、Horní Bory のクフェールグラニュライトに伴う calc-silicate rock 中の流体包有物, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.247, 高知.
- 廣瀬丈洋・溝口一生・Di Toro G., 嶋本利彦, 2006. Shear resistance of faults during frictional melting of tonalite, gabbro and peridotite with marked contrast in viscosity. 日本地球惑星科学連合2006年大会, J162-016, 千葉.
- 藤野滋弘・成瀬元・松本弾・藤田和彦・村山雅史, 2006. 陸上津波堆積物の堆積構造と堆積過程; タイ南西部におけるインド洋津波の例. 日本地球惑星科学連合 2006 年合同大会, G227-013.
- 藤本善航・河野義生・石川正弘・平島崇男・有馬 真, 2006. 高温高圧下におけるローソン石藍閃石片岩の地震波速度測定, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.211, 高知.
- 藤本善航・河野義生・石川正弘・平島崇男・有馬 真, 2006. 高温高圧下におけるローソン石藍閃石片岩の地震波速度測定, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.211, 高知.
- 星出隆志・小畑正明・赤塚貴史, 2006. 室戸岬斑れい岩体に見られるマグマの分化機構—固液境界層からの斜長石に富んだクリスタルマッシュの分離と浮上. 日本地球惑星科学連合大会予稿集 (CD-ROM), 幕張メッセ国際会議場 (千葉).
- 星出隆志・小畑正明・赤塚貴史, 2006. 室戸岬斑れい岩体から見出されたマグマ分化プロセス—固液境界層からの斜長岩質マッシュの分離と浮上, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.239, 高知.
- 松浦俊輔・田上高広・荒井章司・田村明弘, 2006. ジルコン中のフィッション・トラックの等温加熱実験—

- 熱アニーリング特性に関する試料間比較- 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, G152-P002, 千葉.
- 松本啓作・平島崇男, 2006. 西アルプス・セシア帯の Eclogite/Glaucophanite の含水量とその広域変化, 日本地質学会第 113 年学術大会講演要旨, p.246, 高知.
- 山崎誠子・可児智美・Hanan Barry B.・能田成・田上高広, 2006. Isotopic variation in tholeiite lavas from submarine Hualalai ridge, Hawaii. 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, C128-P004, 千葉.
- 山田国見・田上高広・Farley Kenneth A., 2006. (U-Th)/He Thermochronology of the Tanzawa Tonalitic Complex, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, G147-011, 千葉.
- 吉田武夫・堤 昭人・石川尚人, 2006. 高知県室戸半島層群泥岩中の AMS と歪の関係, 地球惑星科学関連学会 2006 年合同大会, J160-P012, 千葉.

◇ 著書

- 前田晴良, 2006, 貧化石層のトリックに挑む: シェルター保存. 遺伝, 2006(7), 32-35.

◇ 研究費の成果報告書

- 松本啓作, 2006. イタリア西アルプス・セシア帯に産するローソン石の岩石学的研究. 平成 17 年度深田研究助成研究報告書, 1-18.

◇ その他

- Komatsu, T. and Naruse, H., 2006. Transgressive progression from siliciclastic shelf to basin environment within the Cretaceous Himenoura Group. *In* Ito, M., Yagishita, K., Ikehara, K. and Matsuda, H., ed., Field Excursion Guidebook, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan. Sedimentological Society of Japan, FE-B9, 1-14.
- Sato, T. and Makino, Y., 2006. Sequences and sedimentary structures of tidal- and wave-influenced shelf in the Oligocene Ashiya Group, Kyushu, Japan. *In* Ito, M. Yagishita, K., Ikehara, K. and Matsuda, H., eds., Field Excursion Guidebook, 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan, Sedimentological Society of Japan, FE-C2, 1-5.
- Sone, H., Hirose, T., Uehara, S., Noda, H., Aizawa, Y., Mizoguchi, K., Tanikawa, W., Tsutsumi, A., and Shimamoto, T., 2006. Rock deformation apparatuses at Kyoto University. *Japanese Journal of Structural Geology*, 49, v-viii.
- 北川博道・瀬戸浩二・高橋啓一・沖村雄二, 2006. 西部瀬戸内海諸島周辺海底から産出したナウマンゾウ化石. 島根大学地球資源環境学研究報告, 25, 43-53.
- 小松俊文・筑紫健一・前田晴良, 2006, 鹿児島県獅子島に分布する御所浦層群から産出したアンモナイトと二枚貝化石の意義. 福井県立博物館紀要, 5, 25-34.
- 佐藤 智之, 2006. International Conference on DELTAS (Borneo venue) 参加報告. 日本地質学会 News, vol.9, No.5, 14-15.
- 佐藤 智之, 2006. International Conference on DELTAS (Borneo venue; 2006 年 1 月) 参加報告. 堆積学研究, 63, 29-32.

- 嶋本利彦・堤 昭人・廣瀬丈洋・相澤泰隆・曾根大貴・上原真一・谷川 亘・野田博之・溝口一生, 2006. 京都大学の摩擦・変形・透水試験機, 構造地質, 49, 49-71.
- 田村 亨・松本 弾・成瀬 元, 2006. 中新統田辺層群の浅海堆積相. 堆積学スクール・オン・ザ・ビーチ 2006 巡検案内書.
- 堤 昭人・白井信正, 2006. 岩石の破壊電磁気現象に関する実験的研究, 構造地質, 49, 77-81.
- 並木則行・岩田隆浩・大竹真紀子・荒木朋子・杉原孝充・山口 靖・山路 敦・中村良介・荒木博志, 2007. SELENE 計画の目指す統合サイエンス: 月の科学. 日本惑星科学会誌, 15, 169-177.
- 藤野 滋 弘, 松本 弾, 成瀬 元, 藤田 和彦, A. Suphawajruksakul, T. Jarupongsakul, 2006. 陸上津波堆積物の堆積構造と堆積過程—タイ南西部におけるインド洋津波の例—. 月刊地球, 28, 558-562.
- 星出隆志・小畑正明・吉村康隆, 2006. 室戸岬ハンレイ岩—マグマ分化プロセスの野外での検証—. 地質学雑誌, 第 112 巻, 補遺, 55-69.
- 増田富士雄・成瀬 元・松岡廣繁・田村 亨・高川智博・齋藤 有・松本 弾・藤野滋弘・佐藤智之, 2006: 古琵琶湖層群の堆積物. 日本堆積学会 2006 年学術大会見学旅行案内書, 34 p. 日本堆積学会.
- 松岡廣繁, 2005(2006): 荘川村の地史. 荘川村史 続巻, 680-695. 岐阜県大野郡荘川村 (高山市荘川町) .
- 松岡廣繁, 2006: 滋賀県湖南市甲西町野洲川河床 (Stop 3) の古琵琶湖層群甲賀累層のデルタ堆積物から産出する二枚貝化石群集. 日本堆積学会 2006 年学術大会見学旅行案内書, 31-34. 日本堆積学会.

付録2. 観測データ・野外調査

◇観測データ

海洋物理学研究室：琵琶湖塩津湾、2006年9月11日—13日、水温、電気伝導度の鉛直分布測定

測地学研究室：地球物理学教室（理4号館屋上）、2006年通年、GPS連続観測

測地学研究室：Phimai・Ubon Ratchathani・Nong Khai（タイ）、2006年通年、GPS連続観測

測地学研究室：神岡鉱山、2006年通年、地殻変動連続観測

測地学研究室：江刺2006年8月、神岡鉱山2007年3月、絶対重力測定

物理気候学研究室：Om Koi（タイ）、2006年通年（欠測あり）、レーダー観測

◇野外調査

河上哲生：タイ王国、2007年2月3日—2月14日、地質調査

田上高広：Java島（インドネシア）、2006年2月28日～3月10日、5月31日～6月8日、9月3日～9月21日、鍾乳洞調査

堤 昭人：Kodiak島（アラスカ）、2006年7月18日～7月28日、付加体調査

付録3. その他の活動

◇国際共同研究

淡路敏之：GODAE (Global Ocean Data Assimilation Experiment)、1996年 UNESCO/IOC(政府間海洋科学委員会)の下部組織として発足、米国、オーストラリア、英仏独伊をはじめとする EU、日本・中国を含め約 20 カ国

根田昌典：ADEOS-II 衛星の国際共同研究プロジェクト (2000(H12)-2007(H19)年)、宇宙航空開発機構 (JAXA)、PIとして ADEOS-II 搭載のマイクロ波放射計 AMSR 及び NASA 打ち上げの人工衛星 Aqua に搭載された AMSR-E の海上風推定アルゴリズムの改善手法の開発に関する共同研究を実施。

里村雄彦：JEPP (2005-2007年)、タイ政府機関及び大学、水災害の軽減と水資源管理の高度化

里村雄彦：CREST (2003-2008年)、東南アジア各国水文・気象関係機関、雨量計観測網

堤 浩之：フィリピン断層帯の研究 (2003年から継続中)、フィリピン火山地震研究所、フィリピン断層帯の活断層図作成とトレンチ掘削調査。

福田洋一：GGP (Global Geodynamics Project) (1997年から継続中)、IAG(International Association of Geodesy)の 10 数カ国、地球ダイナミクスの研究を目的とした超伝導重力計による全球的観測網

田上高広：ハワイ諸島のホットスポット火山研究(1999年度～2007年度)米国 US Geological Survey, Univ. Hawaii, マントル深部からの上昇流に起因するホットスポット型火山帯形成の標準モデル構築を目指して、ハワイ-天皇海山列の東端にあたるハワイ諸島周辺において、年代測定と化学分析などを用いた共同研究を行っている。

余田成男, 竹村恵二, 田上高広：インドネシアの鍾乳石を用いた赤道域の古気候／古環境研究 (2005年度から 2007年度), インドネシア Institut Teknologi Bandung, アジア赤道域の過去のモンスーン気候／気象変動, 特にエルニーニョ南方振動 (ENSO) について, 局地的な降水量の指標となる地下水中の酸素・炭素同位体変動から読み解く事を目的として, インドネシア国内の鍾乳洞において鍾乳石 (石筍) と滴下水を採取し, 縞状組織観察・化学分析・年代測定などの共同研究を進めている。

◇社会的貢献

淡路敏之：Udanaya University (Bali Indonesia) Elective for oceanography and remote sensing for Master course 2 “ Modeling of physical oceanography” 2006年7月28日～8月1日

淡路敏之：データ同化夏の学校、ホテルプラザむつ (青森県むつ市)、2006年8月26日～29日 (幹事)

淡路敏之：ワークショップ「大学の知を支援するセンターマシン」、東京大学、2006年9月6日 (パネリスト)

石岡圭一：秀光中等教育学校の京都研修の受け入れ、2007年3月23日(模擬講義の実施)

石川洋一：データ同化夏の学校、ホテルプラザむつ (青森県むつ市)、2006年8月26日～29日 (幹事)

石川洋一 (分担：地球物理学教室)：彦根東高校スーパーサイエンスハイスクールの校外研修の受け入れ、2006年10月3日 (模擬講義等の実施)

石川洋一：CREAMS/PICES International Summer School on Ocean Circulation and Ecosystem Modelingにて講師を務める(分担)。2006年8月23日～25日。韓国、釜山。

根田昌典(分担：地球物理学教室)：彦根東高校スーパーサイエンスハイスクールの校外研修の受け入れ、2006年10月3日(模擬講義等の実施)

福田洋一：測地学サマースクール、国立天文台水沢VERA観測所(岩手県奥州市)、2006年8月2日(水)～8月4日(金)(サマースクール講師)

町田 忍：科学教育研究協議会・東京物理サークル第36回物理合宿「地球・惑星の磁気圏とオーロラ」、(北安曇野郡)、2006年8月10日(講演)

◇各種役員・編集員等

秋友和典：日本海洋学会「海の研究」・編集委員

秋友和典：日本海洋学会・評議員

淡路敏之：GODAE・国際委員

淡路敏之：日本学術会議海洋物理学研連・委員

淡路敏之：科学技術会議・専門委員

淡路敏之：IGOS/GODAE・ワーキンググループ責任者

淡路敏之：(財)日本海洋科学振興財団・理事

淡路敏之：日本海洋学会・評議員

石川洋一：GODAE Coastal/Shelf seas working group 国際委員

石川洋一：日本海洋科学振興財団・海洋放射能等検討委員会・委員

久家慶子：文部科学省科学技術・学術審議会測地分科会地震部会・臨時委員

久家慶子：文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会地球観測推進部会・臨時委員

久家慶子：財団法人地球科学技術総合推進機構大学における地球観測推進方策検討委員会・委員

久家慶子：社会法人日本地震学会・男女共同参画委員、代議員

久家慶子：Pure and Applied Geophysics (Birkhauser)・Editor

齊藤昭則：地球電磁気・地球惑星圏学会・運営委員

齊藤昭則：電子航法研究所・客員研究員

齊藤昭則：MSAS 技術評価検討委員会・委員

齊藤昭則：EPS 運営委員会・委員

里村雄彦：(社)日本気象学会・常任理事

里村雄彦：(社)日本気象学会・電子情報委員会委員長

里村雄彦：(社)日本気象学会・講演企画委員

里村雄彦：文部科学省 科学技術専門家ネットワーク専門調査員

里村雄彦：学術会議 MAHASRI 小委員会副委員長

里村雄彦：学術会議 CLIVAR 小委員会委員

里村雄彦：学術会議 IAMAS 小委員会委員

里村雄彦：IAMAS International Commission on Climate 委員

里村雄彦：CLIVAR Asian-Australian Monsoon Panel 委員
里村雄彦：SOLA（日本気象学会）・編集副委員長
里村雄彦：天気（日本気象学会）・編集委員
堤 浩之：「活断層研究」（活断層研究会）編集幹事
堤 浩之：地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会活断層評価分科会委員
堤 浩之：(独) 産業技術総合研究所活断層研究センター併任研究員
平原和朗：(社) 日本地震学会・副会長
平原和朗：日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 IASPEI 小小委員会・委員
平原和朗：Asian Seismological Commission ・Bureau Member
平原和朗：神奈川県温泉地学研究所・神奈川県客員研究員
平原和朗：地震予知連絡会・委員
平原和朗：(独)海洋研究開発機構「地震・津波観測監視システム構築」研究推進委員会・委員
福田洋一：日本測地学会・評議員、庶務委員、編集委員、
福田洋一：日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 I A G 小委員会・委員
福田洋一：国立天文台研究交流委員会・委員
福田洋一：総合地球環境学研究所「都市の地下環境に残る人間活動の影響」・共同研究員
余田成男：日本気象学会・理事（第3 4期）
余田成男：日本気象学会講演企画委員・国際学術交流委員
余田成男：WCRP/SPARC・Theme Leader "Stratosphere-Troposphere Dynamical Coupling"
余田成男：IUGG/IAMAS/ICMA・委員
余田成男：Journal of the Atmospheric Sciences(AMS)・Associate Editor
小畑正明：Journal of Metamorphic Geology(Blackwell)・Editorial Review Board
小畑正明：Journal of Mineralogical and Petrological Sciences・Associate Editor
小畑正明：Island Arc(Blackwell)・Editorial Advisory Board
小畑正明：Mineralogical Society of America, Fellow
小畑正明：日本岩石鉱物鉱床学会 評議員
河上哲生：Gondwana Research (Elsevier)・Editorial Board
河上哲生：International Association for Gondwana Research, Steering Committee
嶋本利彦：IODP コンソーシアム・理事
嶋本利彦：日本地質学会・評議委員
嶋本利彦：Journal of Structural Geology (Elsevier), Editorial Advisory Board
嶋本利彦：独立行政法人産業技術総合研究所研究ユニット評価委員会（活断層研究センター）委員
下林典正：日本鉱物学会・評議員、日本鉱物学会・科研費問題検討委員会委員長
田上高広：The Island Arc, Associate editor
田上高広：International Fission Track Working Group, Committee member
田上高広：東電設計 断層年代測定委員会・委員
堤 昭人：地震発生の素過程研究推進部会・委員

平島崇男：Journal of Mineralogical and Petrological Sciences・Associate Editor
平島崇男：岩石鉱物科学・編集委員
平島崇男：International Eclogite Conference Co-ordinating Committee (IECCC)、
国際エクロジャイト会議・組織委員
平島崇男：日本岩石鉱物鉱床学会・評議員
平島崇男：日本岩石鉱物鉱床学会・常務委員
前田晴良：日本古生物学会・評議員
前田晴良：日本古生物学会・常務委員 [会員]
前田晴良：Island Arc (Blackwell)・Associate Editor
前田晴良：国際頭足類シンポジウム・実行委員
山路 敦：日本地質学会評議員
山路 敦：地質学雑誌（日本地質学会）編集委員

◇ 非常勤研究員・非常勤講師等

久家慶子：独立法人建築研究所国際地震工学部「Earthquake Source Process」・2007年3月1-2, 8-9
日

福田洋一：京都工芸繊維大学非常勤講師（地学実験）・前期30時間集中

堤 昭人：独立行政法人産業技術総合研究所客員研究員

受け入れ：白井信正（独立行政法人産業技術総合研究所・地質情報研究部門）

期間：平成18年5月1日～平成19年3月31日

研究題目：岩石の高圧下での摩擦に関する研究

山路 敦：第94回深田研談話会講師

受け入れ：深田地質研究所

期間：平成18年10月20日

題目：小断層解析による地殻応力測定

山路 敦：第95回深田研現地談話会講師

受け入れ：深田地質研究所

期間：平成18年10月21日

題目：和泉層群の小断層と露頭規模の変形構造

◇招聘研究者・客員研究者

- John. P. Matthews (元京都大学 COE 研究員・教授) (招聘) : 淡路敏之、科研費、2006 年 7 月 18 日～31 日、エルニーニョや内部波起源混合等の海洋現象の解読に必要な 4 次元変分法データ同化及び解析の研究打ち合わせ
- Koh, Tieh-Yong (Nanyang Technological University) (招聘) : 余田成男、21 世紀 COE(KAGI21)2007 年 3 月 9 日-24 日、研究課題 : 「長期予報結果とメソモデルを連結した領域的アンサンブル長期予報の試験開発」
- Sun Heping (中国科学院・武漢測地学および地球物理学研究所) (招聘) : 福田洋一、独立行政法人日本学術振興会 (二国間)、2007 年 2 月 21 日～3 月 1 日、「精密重力および GPS 観測による東アジアにおけるジオダイナミクスの研究」に関する共同研究
- Tri Wahyu Hadi (Institute Technology of Bandung) (招聘) : 余田成男、21 世紀 COE(KAGI21) 2007 年 3 月 9 日-24 日、研究課題 : 「長期予報結果とメソモデルを連結した領域的アンサンブル長期予報の試験開発」
- Xiong Xiong (中国科学院・武漢測地学および地球物理学研究所) (招聘) : 福田洋一、独立行政法人日本学術振興会 (二国間)、2007 年 2 月 21 日～3 月 1 日、「精密重力および GPS 観測による東アジアにおけるジオダイナミクスの研究」に関する共同研究
- 加瀬祐子 (産業技術総合研究所活断層研究センター) (招聘) : 久家慶子、COE21、2007 年 1 月 15-17 日、地震の動的破壊シミュレーションに関する共同研究およびセミナー "Dynamic rupture simulations for multi-segmented earthquakes" の開催
- 佐々木 嘉和 (オクラホマ大学名誉教授) (招聘) : 淡路敏之、科研費、2006 年 5 月 30 日～31 日、研究打ち合わせ及び講演会「百年予測の可能性について」の開催
- Lisle, R.J. (招聘) : 山路 敦、京都大学教育研究振興財団外国人研究者招へい助成(短期)、2006 年 9 月 12 日～9 月 22 日、若い地質体の断裂系解析による応力の研究

◇受けた招聘

山路 敦 : BK21 Lecture 講師

受け入れ : Prof. Young-Seog Kim (Environmental and Marine Sciences and Technology, Pukyong National University, Korea)

期間 : 平成 19 年 2 月 26 日～3 月 1 日

題目 : Fault-slip analysis: theories and applications

付録4. 地球物理学技術情報活動報告（地球物理学分野）

地球物理学教室のサーバー(メール, Web, その他)は, これまで複数の古いサーバーが機能分担しており, セキュリティ対策などの管理コストが余計にかかっていたが,新しい強力なサーバーを1台立ち上げ, そこに機能を集約させることによってシステム全体の処理能力が上がるとともに管理が容易になった. また, 同時に, メールウィルスチェックおよびスパムチェックのソフトウェアもこのサーバーに導入した. これによって, スпам(迷惑メール)の振り分けなどが可能になった.

最近ではユーザレベルの計算機環境は各講座で整えられているため, その使い方に必要な教育も各講座で行われているということで技術情報委員会としての説明会は開催していないが, 一昨年の説明会の資料や教室のネットワークに関する最新情報は,

<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/gijitu/index.html>

にあるので随時参照されたい.

なお, 本教室の計算機・ネットワーク環境の維持・更新には, 主として高畑技官があたっている.

地球物理学技術情報委員長 石岡圭一

発行年月日：2007(平成19)年11月1日

発行：京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

編集：地球物理学分野図書委員会・地質学鉱物学分野年報委員会